平成１８年度

年　　報

市立大町山岳博物館

目　　次

平成17年度の活動から…… 1

Ⅰ　資料収集・保存管理事業
1. 資料収集…… 3
(1) 新規収集資料
2. 資料保存管理…… 3
(1) 収蔵資料
(2) 所蔵図書

Ⅱ　調査研究事業
1. 調査研究…… 5
(1) 大町市おけるクロツバメシジミの生息状況
(2) 大町市に生息する高山蝶
―ミヤマモンキチョウについて―
(3) 里山の甲虫調査
(4) 安曇地方の絶滅危惧植物の生活史の研究
(5) 大町周辺の山人たちの活動と近代登山黎明期への影響

Ⅲ　教育普及事業
1. 展示…… 7
(1) 常設展示
(2) 企画展示
(3) 特別展示
(4) その他（館内でのミニ企画展示、新着資料展示など）
2. 教育活動…… 12
(1) おもしろ山博ミニゼミ
(2) 学習会・講座の開催
(3) 学校との連携、融合
(4) 学芸員実習の受入
(5) 各種観察会・学習会への協力
(6) テレビ、ラジオへの出演
(7) 収蔵資料などの貸出
(8) 調査研究に関する発表
(9) アンケート調査
3．執筆・出版…… 21
(1) 執筆
(2) 出版
4．インターネット・ウェブサイト…… 24
(1) 公式ウェブサイト
(2) 安曇野アートラインウェブサイト
5．友の会…… 24
(1) 組織
(2) 運営部
(3) 編集部
(4) サークル活動
6．ボランティア活動…… 26

Ⅳ　動植物飼育栽培繁殖事業
1. 動物飼育繁殖…… 27
(1) 飼育動物
(2) 傷病鳥獣保護
2. 植物栽培繁殖…… 28
(1) 栽培植物

Ⅴ　ライチョウ保護事業
1. 大町市におけるライチョウ保護事業の展開方針…… 29
(1) はじめに
(2) 今後の方針について
(3) 事業展開について
(4) ライチョウ保護事業の展開における基本方針
2. ライチョウ会議…… 30
(1) ライチョウ会議
(2) 第7回ライチョウ会議静岡大会

Ⅵ　その他
1. 各種委員などの委嘱…… 31
2. アルペン動物園との友好提携協定の締結…… 31
3. 信州大学山岳科学総合研究所との研究協力協定の締結…… 31

Ⅶ　運営
1. 組織および職員構成…… 32
2. 協議会…… 32
3. 入館者状況…… 33
4. 平成18年度予算・決算…… 35

Ⅷ　関係条例・規則等
1. 市立大町山岳博物館条例…… 36
2. 市立大町山岳博物館規則…… 38
3. 大町市ライチョウ保護事業計画策定委員会設置要綱…… 40

Ⅸ　施設
1. 敷地面積…… 41
2. 本館建物…… 41
3. 付属施設…… 41
4. 本館平面図…… 42
5. 付属園の建物図…… 43

Ⅹ　利用案内…… 43

平成 18 年度の活動から

館 長　柳澤 昭夫

平成 18 年度、大町山岳博物館は、今まで取り組んできたライチョウの低地飼育と現地飼育を含む生態調査研究、絶滅が危惧される植物の生態調査と研究、近代登山の黎明期を支えた安曇の山人達の調査研究をもとに「ライチョウの生態と飼育」「草花の一生」「北アルプスの山人たちの系譜」などの企画展を開催した。（詳細は調査研究、企画展の項を参照）山岳博物館らしい視点と分かりやすい展示は好評を得た。ことに「北アルプスの山人たちの系譜」は、分散資料を確認し、登山史に位置づけて検証した意味は大きい。最終日に開催された菊地俊朗氏の講演には東京から「日本山岳文化学会」会員が多数来館した。創設以来とり組んできたライチョウ調査と保護事業については、検討委員会、計画策定委員会の検証を経て、この企画展の開催となった。より詳細に総括し専門的評価を得てまとめたい。

里山の甲虫マーキング調査は、友の会子供探検クラブ、市内小学生の協力を得て、学習活動の一環として展開した。十分とは言えないまでも、市内各学校に呼びかけ、数年かけて、調査と学習活動の成果を期待したい。

長野県は、平成 16 年度にライチョウを希少野生動植物の一つに指定し、環境省の支援を得て、保護回復事業を展開する計画を進めている。基礎データを得るための平成 18 年度の生息状況調査によれば北アルプス後立山では、ライチョウは 26 年前と比較し半減した。変わってサルの高山域への生息痕跡が多数確認されている。平成 19 年度は、過去、山岳博物館が実施した、爺が岳および岩小屋沢岳周辺の生息状況調査と比較するため、当域で、植生分布、ハイマツなどの植生、成長状況調査を行う。

高山帯の環境の変化を調査しその要因を特定し、ライチョウへの影響と保護対策を立案する。調査方法については、より科学的調査方法を確立したいとしている。

山岳博物館は、県の事業に協力し、調査データを提供するとともに、高山環境を守るため、ライチョウに関わる高山の植物、動物、積雪、融雪等の環境調査、人為的影響等の調査に協力したい。

平成 19 年 8 月 18・19 日に第８回ライチョウ会議長野大会を大町市で開催する。信州大学山岳科学総合研究所、長野県山岳協会、日本山岳会信濃支部、日本野鳥の会長野支部、伊那谷自然友の会、信州ワシタカ類渡り調査研究グループ、ＮＰＯ法人信州松本山岳ガイド協会やまたみ、同信州ツキノワグマ研究会などの協力を得て実行委員会が発足し準備を進めている。大会のテーマは「ライチョウと高山環境をいかに守る

かである。山岳博物館が取り組んできたライチョウの生息域内保全と生息域外保全の連携、サル、シカなどの高山への進出、温暖化が及ぼす高山環境への影響などについて、カナダから研究者を招聘し、国際的視点を交えて、研究発表や意見交換を行うとともに、市民とともにライチョウ保護を通じて、地球温暖化など環境問題を考える機会にしたい。

現在、収蔵資料は 16,095 点、うち自然科学系 10,692 点人文化学系 5,403 点である。資料を収集し、資料を解析し、時代や環境、生態系の中にきちんと位置づけて展示し、教育活動を展開することは、博物館のもっとも基本的な使命であることはいうまでもない。資料を収集し、解析、検証することの積み重ねが、博物館の知的財産の蓄積になる。残念ながら、山博の収蔵庫は、機密性に欠け、防虫、防湿機能が不十分で、資料を良好な状態で保存できない。改築、拡大、整理備品の設置など大幅な施設整備が必要であるが、どのように展示を展開するか、その構想に基づいて、資料を発掘し収集する目的を明確にすることは重要である。長期的展望に基づき、博物館のベースの充実を図りたい。

山岳博物館に関わる近年の状況は、総合的学習、登山の事前学習、体験的学習で訪れる児童、生徒は増加しつつあるが、観光で大町を訪れる人の減少とともに入館者は減少した。大町市民の入館者も少ない。北アルプスの自然と登山をテーマにした、「特色ある博物館」を目指して「使命書」(基本理念、基本方針とそれに基づいた基本計画)を作成し中長期計画に基づいて館の充実に努めたい。

Ⅰ　資料収集・保存管理事業

1. 資料収集

(1)新規収集資料

平成 18 年 4 月 1 日から平成 19 年 3 月 31 日の間、寄贈によって次の資料を収集した。

受入日	資　料　名	数量	寄贈者	住所
平成 18 年 6 月 8 日	化石標本	65 点	個人	長野県
6 月 21 日	フプアウフ製ピッケル、山内製アイゼン	2 点	個人	東京都
8 月 8 日	カモシカ皮製尻当	1 点	個人	静岡県
8 月 22 日	書籍など	52 点	個人	神奈川県
9 月 5 日	牧潤一ペン画プリント作品	36 点	個人	埼玉県
10 月 27 日	書籍、地形図	2 点	個人	神奈川県
11 月 21 日	書籍	2 点	個人	神奈川県
11 月 28 日	東京トップ製ピッケル	1 点	個人	東京都
11 月 30 日	門田製ピッケル	1 点	個人	東京都
12 月 15 日	ノスリ剥製	1 点	個人	長野県
平成 19 年 2 月 19 日	米軍放出品(毛糸製セーターほか)など	8 点	個人	福岡県

(敬称略)

2. 資料保存管理

(1)収蔵資料

分類名および点数		分類名および点数	
自然科学系　　合計 10,692 点		人文科学系　　合計 5,403 点	
菌類(液浸標本)	129 点	山岳	3,580 点
蘚苔類(乾燥標本)	674 点	美術	189 点
維管束植物(液侵標本)	7 点	民俗	928 点
維管束植物(さく葉標本)	※6,000 点	歴史	49 点
魚類(液浸標本)	62 点	考古	158 点
両生爬虫類(液浸標本等)	72 点	寄託(山岳、美術)	507 点
貝・甲殻類(液浸標本)	13 点	(寄託内訳)	
哺乳類(剥製・骨格標本)	224 点	個人寄託 250 点	
鳥類(剥製標本)	615 点	個人寄託(ﾋﾟｯｹﾙ関係) 93 点	
昆虫(標本ドイツ箱)	166 点	団体寄託 164 点	
昆虫(未標本作製資料)	※1,000 点		
昆虫(液浸標本)	27 点		
その他液浸標本(調査研究資料)	103 点		
地質	※1,650 点		

①収蔵資料の点数　総計 16,095 点(平成 19 年 3 月 31 日現在)

※　これらの資料点数については概数である。

②現状と課題

IPM（Integrated Pest Management）＝総合的有害生物管理に移行させるため、平成 19 年度より粘着トラップ等を定期的に設置し、館内への有害昆虫類・塵などの数値的把握、侵入経路の調査を行う基礎資料の収集を行う。

a. 自然科学系

動物（剥製）資料については資料カード（紙）および最低限の検索・照会作業のPC検索ができるように整理されているが、昆虫・地質資料等については未整備である。

維管束植物（さく葉標本）については、12 月から同定・整理・作成を開始したが、完了するまでに時間を要することと思われる。

動物・植物標本庫については、昆虫等の侵入を防げる室内の確保、適正な温湿度管理の確保が重要課題である。

b. 人文科学系

資料収集については、一次資料に関して未登録資料の新規追加登録作業を進める必要がある。また、二次資料の整理も同様である。同時に、登録済み資料に関しても、資料情報の追記ほか、記録写真が未撮影のものや作図が未添付のものはそれらの作業を段階的に進めたい。当面の目標として、受付台帳をもとにした収蔵資料目録の作成・刊行を目指す。

資料保存管理については、防虫剤をパラジクロロベンゼンからエンペントリンに代替中。ただし、開放空間では空間体積に対して有効量に達しないために殺虫効果が低く、殺卵効果はないため、定期的なシフェノトリンによる簡易ガス燻蒸を実施（今年度は展示室 8 回、収蔵スペース 6 回実施）。現在、資料の保存環境は好ましくない。展示ケースや収蔵スペースの床を含め、気密性を持たせた保存環境空間の確保、あるいは全館規模での防塵・防虫対策など、施設面の抜本的な改善が急務である。こうした環境を数値として示すため、展示室・収蔵スペースの一部において年間を通じて温湿度の測定を 1 日 3 回行なったので、今後、結果を分析したい。

(2)所蔵図書

①所蔵図書の点数

1,335 冊（平成 16 年 3 月 31 日現在）

※平成 17 年度以降の新規受け入れ図書点数は未整理

②現状と課題

未入力の新規書籍が増加している。

Ⅱ　調査研究事業

1. 調査研究

(1)大町市におけるクロツバメシジミの生息状況（担当：清水）

平成 13 年調査からの継続調査として高瀬川を中心とした大町市における生息地の確認と環境変化による本種の生息に与える影響についてを調べるために、生態観察をとおして 1 年間の発生回数の確認等について調査した。本年度の調査は平成 18 年 5 月 4 日～12 月 6 日まで 21 回行った。調査地域内において最も生息環境の安定している地区における本種の成虫は、5 月 3 日から 10 月 28 日まで確認され、8 月 25 日から 10 月 28 日の間は常時成虫の確認がされた。成虫の発生回数は、個体数の大きなピークより5月下旬・7月下旬の小規模な発生の後、8月下旬から10月上旬まで安定した発生が認められた。また、5 月 10 日には、同生息地における公共工事の関係により近隣地へ一部食草の移植が行われ、9 月 25 日には移植された場所において本種の活動を確認している。工事は 11 月下旬～12 月末日まで行われた。工事終了後の経過についての観察を続けたい。

(2)大町市に生息する高山蝶 ―ミヤマモンキチョウについて―（担当：清水）

大町市はミヤマモンキチョウの北アルプスにおける分布の北限地域にあたるが、分布等にいくつか疑問がある。

平成 18 年 7 月 15～16 日（湯俣岳周辺）当該地域における本種の生息状況についての報告は少ないことから、本種の生息状況を把握することを目的として、平成16年本種の卵を確認した地域を中心に調査を行った。食餌植物の分布状況を把握するとともに成虫・卵の確認をした。

平成 18 年 8 月 8～9 日（爺ヶ岳～鹿島槍ヶ岳）昨年同様本種の生息確認調査を行ったが、今年も確認することができなかった。

平成18年8月21～23日（燕岳～大天井岳～常念岳～蝶ヶ岳）他の野外調査と並行調査で行った。特に常念乗越を中心に食餌植物の分布状況、産卵状況に関する資料収集を行った。

平成 18 年 10 月 6～7 日（湯俣岳周辺）今年 7 月に確認した卵の追跡調査を行った。幼虫を確認することはできなかったが、食痕は確認することができた。

当館の事業計画に基づき、当面の間本件に関わる野外調査は中断することとなった。

(3)里山の甲虫調査（担当：清水）

里山に生息する昆虫を指標として里山の環境保全についてを考えるため、甲虫の背中に文字や数字を書き込み放し、再捕獲することにより行動範囲を調べた。本調査は長野県環境保全研究所との共同調査という形で、平成 18 年度では、山岳博物館友の会「こども探検クラブ」と「大町北小学校」の小学生の協力を得て実施した。調査期間は平成 18 年 7 月 18 日～8 月 25 日で、大町市内においてカブトムシ・ミヤマクワガタなど 89 個体にマーキングを行った。そのうち 2 個体が再捕獲された。再捕獲まで 11～16 日間の経過があったが、どちらの個体の移動距離も 170m 程度であった。なお、単年度では結論が得られないことから継続調査とし、平成 20 年度までに成果を得て企画展に反映させたい。データの精度を上げるため、マーキング個体数を増やす必要があり、調査人数を増やすことが課題である。

(4)安曇地方の絶滅危惧植物の生活史の研究（担当：千葉）

今年度は絶滅危惧ＩＡ 類ホロムイソウ、準絶滅危惧フクジュソウに新規に準絶滅危惧トキソウを加え生育地での観察とともに栽培個体の観察を行った。

① ホロムイソウ

自生地で開花期に湿原の温度測定を行い葯の裂開との関係について検討した。葯の裂開状況についてはビデオ撮影を行ったが、陽ざしが強く映像が鮮明でないことから葯の裂開状況を確認することができなかった。観察方法について、検討する必要が生じた。生活史の研究については生産種子数が少なく、供試種子が得にくく、また自生地での繁殖に影響を与えかねないため断念せざるをえない。このため、本研究は開花特性を中心に明らかにし、平成 19 年度で終了させたい。

② フクジュソウ

生活史研究のひとつとして博物館で育てて 5 年目になる個体の観察を行ったが開花にまでは至らなかった。

自生地にて複合痩果が熟した散布期に、落下した痩果には数種のアリがエライオソームを目的に集まり、運ぶことを昨年に確認した。今年は群落の縁、群落内で痩果を播種し、集まったアリを採取し、吉村正志氏（アリ類データベース作成グループ）に同定を依頼した。栽培個体が開花に至り次第、アリによる種子散布について考察を付け加え、論文として投稿し、研究を終了としたい。

③ トキソウ

今年度から研究を開始した。長野県準絶滅危惧で、生育は湿地に限られる。今年度は受粉様式について観察を行い、花の構造および訪花観察からマルハナバチが有力な花粉媒介昆虫であることが示唆された。また、博物館で栽培している個体の開花日数および結実について観察を行った。次年度以降は種子を採取し生活史の観察を行い、企画展へ反映させるための資料を得たい。

なお、博物館では、平成 24 年までに企画展に反映させる調査研究を順次、優先的に行うとし、見通しのつかないものについては中断することとした。これは現在の各研究に終了期間が設定されておらず、終了は各人に任せられていることから、企画展に反映させるための新規事業計画を立案したときに、どうしても現行の研究に予算配分がなされ、新規事業が展開できないことが続いたためである。また、職員の異動が頻繁になってきたなかで、中断は異動が生じた場合、まとめるに至らず、何も得られない結果となる可能性がある。従ってどのような結果を得て、いつまでにまとめ、企画展あるいは研究発表などに反映させるのかを明らかにする必要があるのではないだろうか。

(5)大町周辺の山人たちの活動と近代登山黎明期への影響（担当：関）

遠山品右衛門、上條嘉門次、小林喜作を中心にして、北アルプス信州側の山人（やまうど）たちについて、二次資料の収集や聞き取りを行った。そして、主に文献上に見られる関係記述を個別に拾いあげ、品右衛門、嘉門次、喜作の三人の年譜を作成。これをもとにして、そのほかの山人や初期の山案内人たちの記録や当時の登山史上や社会的な関係事項などを加え、詳細な関係年表を作成した。平成 18 年度は実物資料の所在確認調査と関係者からの聞き取り調査を行った。また、彼らの遺品など関係する実物資料を確認し、当時の使用状況などについての考察を試みた。これらの結果をもとにして企画展「北アルプス　山人たちの系譜―嘉門次、品右衛門、喜作　登場の背景―」を企画し、開催した。品右衛門に関して、あるいは各案内人組合に関して、今後の新たな課題や調査研究の項目が出てきたが、本調査研究はこれをもって一区切りをつけたい。

Ⅲ　教育普及事業

1. 展示

(1)常設展示

①新規展示

a. 植物と昆虫の関係（担当：千葉）

・時　期：平成 18 年 9 月 18 日（月）～

・場　所：2 階第 2 展示室

・概　要：企画展「くさばなの一生」において、博物館で編集したビデオ映像を二階常設展示に活用できるようにした。

・展示資料：DVDによる4番組の動画（フクジュソウ、サクラソウ、ササユリ、コマクサ）、細密画 4 点、植物レプリカ 4 点

・所　見：動画は植物と昆虫との関係をわかりやすく編集したもので、興味のある番組をマウスでクリックすることで始まるようにした。映像をソファーに腰掛けゆっくり鑑賞できるようにし、また企画展で販売した解説書も手にとって見られるようにしたことで、展示室内に充実したエリアを作り出すことができたと思われる。

b. ライチョウの生活（担当：千葉）

・時　期：平成 18 年 9 月 18 日（月）～

・場　所：2 階第 2 展示室

・概　要：企画展「ライチョウの生態と飼育」において、博物館で編集したビデオ映像を二階展示室で鑑賞できるようにした。

・展示資料：DVDによる2番組（餌をついばむライチョウの親子、砂浴びをする親子）

・所　見：コマクサの訪花昆虫調査の際に蓮華岳において撮影したライチョウの親子のビデオを短編的に編集し鑑賞できるようにした。これまでの剥製、写真パネルおよび解説パネルに、映像を加えることで、実際の動きを見て、どのような行動をしているのかより理解してもらうことができたと思う。今後は番組を増やすと同時に現在の映像がエンドレスで流れているため、番組を選べるよう手法へと改良し、ライチョウへ興味を持ってもらうように努ることが良いと考える。

c. 世界のライチョウ（担当：宮野）

・時　期：平成 18 年9月 18 日(月)～11 月 30 日（木）

・場　所：2 階第 2 展示室

・概　要：企画展ライチョウの生活と飼育に既存展示の剥製使用するため、世界のライチョウを剥製にて紹介する。

・展示資料：ヨーロッパオオライチョウ、ソウゲンライチョウ、エリマキライチョウ、クライチョウ、エゾライチョウ 15 点を展示

・所　見：世界のライチョウと題して剥製標本に種名と産地を記したラベルのみで展開したが、解説文の工夫が必要であった。今回は収蔵庫に収められた資料を活用したが、今後は収蔵資料の整理・検証を行い、常設展示を補う収蔵展を開催することが望ましい。

d. 對山館の再現模型（担当：関）

・時　期：平成 19 年 1 月 27 日（土）～3 月 25 日（日）

・場　所：1階第1展示室

・概　要：企画展「對山館と百瀬慎太郎」開催時に作成・展示した對山館の再現模型を「百瀬慎太郎と山案内人組合」コーナーに追加展示した。

・展示資料:對山館の建物外観・配置再現模型(昭和 16 年前後を想定・縮尺 50 分の 1)
・所　見: 常設展示した写真パネルを再現模型とともにご覧いただくことで、当時の店構えなどの様子について立体的に想像する助けになったと考える。

②展示テーマおよび展示資料点数　総計 1,437 点(平成 19 年 3 月 31 日現在)

内訳(自然科学系　合計 623 点、人文科学系　合計 814 点)

展示テーマ	展示資料点数	展示テーマ	展示資料点数
3F 展望室		1F　ホール・特別展示室	
「北アルプスの展望」コーナー	計 4 点	「山と芸術」コーナー	計 61 点
2F　第 2 展示室　※1		絵画　※2	21 点
「山岳の自然」コーナー	計 623 点	その他	19 点
北アルプスのかたち	24 点	ピッケル	21 点
北アルプスの生いたち	80 点	1F　第 1 展示室	
里山から高山までの生物	235 点	「山と登山」コーナー	計 749 点
ライチョウ	7 点	北アルプスの登山史	322 点
さわれる剥製	5 点	北アルプスの山小屋	46 点
渓谷の生物	35 点	登山の道具	152 点
湖の生物	60 点	遭難	57 点
湿原の生物	55 点	エベレスト周辺の地形模型	39 点
剥製ライブラリー	102 点	日本人の海外登山	108 点
パレットライブラリー	20 点	山のコラム	25 点

※1 一次資料のほか、一部写真パネルなど含む。
※2 絵画作品については、特別・企画展開催の際は展示替えのため公開していない。

(2)企画展示

①「動物写生画展」(担当:関)

a. 会　期:平成 18 年 7 月 9 日(日)～17 日(月・祝)
b. 会　場:講堂(入場無料)
c. 概　要:春の動物写生大会に参加した園児、児童・生徒のみなさんが描いた博物館付属園内の動物や風景の絵画作品全 166 点を展示。
d. 主な展示資料:園児、児童・生徒による絵画作品 166 点
e. 関連イベント:
・春の動物写生大会(場所:付属園)　4 月 29 日(土・祝)・30 日(日)、5 月 3 日(水・祝)～7 日(日)
※開催期間中は毎日「山博おもしろミニゼミ付属園の動物ウォッチング」を開催し、飼育動物の生態、身体のしくみや特徴などを学芸員が説明
・写生画審査会(場所:講堂)　5 月 11 日(木)
・中部ブロック写生コンクール　6 月 11 日(日)
(主催:日本動物園水族館協会中部ブロック、場所:名古屋市東山総合公園)
・写生画表彰式(場所:講堂)　7 月 17 日(月・祝)
f. 所　見:毎年恒例の地域の子供向けの企画展。絵画作品のほかに、付属園で飼育中の動物や付属園の役割などについて写真パネルや説明パネルによって紹介した。これにより、付属園でのカモシカの保護・繁殖事業や野生動物の救護活動について市民などに広く知っていただく機会にもなった。

②ボタニカルアートで描く くさばなの一生

日本の草本・外来草本の生活史その営みとなぞにせまる!!(担当:千葉)

a. 会　期:平成 18 年 7 月 22 日(土)～9 月 10 日(日)※

b. 会　場:特別展示室・ホール

c. 監修・協力:清水建美・日本産草本植物の生活史研究プロジェクト

d. 主な展示資料:写真解説パネル、DVDによる動画、植物レプリカ、昆虫標本

e. 関連イベント:観覧者に対するアンケート調査の実施

f. 見学者数:6,227 名

g. 所　見:昨年、アスベスト問題で延期になった企画展。2002 年より絶滅危惧植物を中心に博物館で研究を行ってきた成果を中心に、日本産草本植物の生活史研究プロジェクトからも資料を提供していただき、種子～開花個体に至るまでの生活史や、花の構造やその特徴、昆虫との関わりを解説した。博物館で撮影したビデオ映像の編集には時間を要したが、観覧者にはとても興味深く見ていただくことができた。また会期が半年延びたことで、企画展解説書はより充実した内容となった。

③「キノコ展」(担当:千葉)

a. 会　期:平成 18 年 9 月 23 日(土)～24 日(日)

b. 会　場:講堂(入場無料)

c. 概　要:パネルを用いてキノコの正体の紹介および今年採れた生のキノコの展示。

d. 関連イベント:キノコ学習会

e. 展示協力者一覧(敬称略・五十音順):飯島八郎・清沢由之・高野哲哉・博物館友の会

g. 所　見: 昨年は 139 種であったが、今年は 157 種のキノコを展示することができた。

④「ライチョウの生態と飼育」(担当:宮野)

a. 会　期:平成 18 年 10 月 1 日(日)～11 月 26 日(日)

b. 会　場:特別展示室・ホール

c. 後　援:信濃毎日新聞社　朝日新聞松本支局　中日新聞社　讀賣新聞松本支局　毎日新聞松本支局　産經新聞社長野支局　大糸タイムス株式会社　民友信州　市民タイムス　FM 長野　SBC 信越放送　NBS 長野放送　(株)テレビ信州　長野朝日放送(株)　アルプスケーブルビジョン(株)　大町市有線放送電話農協

d. 主な展示資料:写真解説パネル、剥製標本、孵卵器、育雛器など 35 点

e. 見学者数:3,960 名

g. 所　見: 3 部構成により展示した。「ライチョウの生活」ではナワバリ形成の春から繁殖期を経て秋の群れまでの生活を平瀬貴志氏の写真とその時期に合うライチョウの剥製を展示するすることにより換羽や雛の成長など、変化する様子が理解できたと思う。「ライチョウの特徴」では換羽に焦点を当てた。「ライチョウの飼育」では孵卵器や育雛器を初めて公開し、飼育の実態を見ていただけたと思う。ただしライチョウ飼育の総括をわかりやすく展開することができず、死因に関わる展示のみとなってしまったのが反省として残る。

⑤「博物館のあゆみ」(担当:千葉・清水)

a. 会　期:平成 18 年 10 月 28 日(土)～11 月 10 日(金)

b. 会　場:講堂(入場無料)

c. 概　要:創立 55 周年を記念して、パネル、研究機材、剥製、刊行本、研究報告書などを用いて創立から現在にいたるまでの歴史を紹介した。

d. 所　見: 実質半月で企画案の作成を行い実施したため、充分に内容を検討することができなかった。また、企画展解説書を含め、すべてが手作りであったことから準備にはかなりの時間を要した。
実施したアンケート(回答9)には昔を懐かしむ声と今後の博物館への期待の大きさが伺えた。

⑥「北アルプス 山人たちの系譜 ―嘉門次、品右衛門、喜作 登場の背景―」(担当:関)

a. 会　期:平成 19 年 1 月 27 日(土)～3 月 25 日(日)

b. 会　場:特別展示室・ホール

c. 後　援:信濃毎日新聞社　朝日新聞松本支局　中日新聞社　讀賣新聞松本支局　毎日新聞松本支局　産經新聞社長野支局　大糸タイムス株式会社　民友信州　市民タイムス　FM 長野　SBC 信越放送　NBS 長野放送　(株)テレビ信州　長野朝日放送(株)　アルプスケーブルビジョン(株)　大町市有線放送電話農協

d. 概　要:上條嘉門次、遠山品右衛門、小林喜作を中心に、北アルプスの長野県側を拠点に暮らした山人たちに焦点をあて、かれらが使ったと伝えられる道具などの実物資料約 80 点を展示したほか、関係写真などをパネルで紹介。山人たちの山での暮らしを推測するとともに、山人としての嘉門次、品右衛門、喜作の実像に迫り、かれらがその時代に登場することになった背景について探った。そして、かれら三人が持ち合わせていた山の知恵を継承した次世代の猟師や山案内人たちの系譜をたどった。

e. 主な展示資料:伝嘉門次使用鉄砲、伝品右衛門使用皮鉢、伝喜作使用狩猟刀ほか

f. 見学者数:1,551 名(有料入館者 1,291 名、無料入館者 260 名〈うち招待者 39 名〉)

g. 関連イベント:

・企画展開催記念・友の会総会記念講演会

演題:「嘉門次、品右衛門、喜作　登場の背景」　講師:山岳ジャーナリスト・菊地俊朗氏

(主催:当館・山博友の会、場所:講堂)　3 月 11 日(日)参加者:約 80 名

・そのほか　会期中、展示に関する内容の山博おもしろミニゼミを開催

h. 関連印刷物:

・チラシ　10,000 部

・展示資料目録(印刷機にて若干部印刷)

・展示解説書 500 部(@200 円で一般販売)

・山と博物館　特集号　1,000 部

i. 所　見:大町周辺の山人たちの活動と近代登山黎明期への影響について、平成 15 年度から足掛け 4 年間にわたって調査・研究してきた内容を反映させた企画展であった。現在では伝説的になっているともいえる山人、上條嘉門次、遠山品右衛門、小林喜作の 3 人について、現存する資料を可能な限り集めて展示したり、菊地俊朗氏のご協力によって新たな視点から人物像を検証したりすることで、かれらの実像に迫ることができた。解説書も好評で、画期的な企画展になったと考える。

(3)特別展示

①「白馬 SHIROUMA　菊池哲男写真展」(担当:宮野)

a. 会　期:平成 18 年 4 月 15 日(土)～5 月 28 日(日)　開館日数 40 日間

b. 会　場:特別展示室・ホール

c. 概　要:北アルプスの白馬岳や五龍岳、鹿島槍ケ岳そして針ノ木岳へと続く後立山連峰に魅せられた菊地哲男氏が 15 年以上にもわたり撮影を続けた写真の中から四季折々の情景を中心にて展示した。特に今回は近年急速に普及しているデジタル一眼レフカメラによる最新の作品を大パネルにて展示した。

d. 主な展示資料:カラー写真　計 40 点

e. 見学者数:5,244 名(有料 4,122 名、無料 1,122 名〈うち招待者 120 名〉)

f. 関連イベント:　4 月 16 日(日)は午後 2 時より 3 時まで、5月 28 日(日)は午前 10 時からと、午後 2 時からの 2 回で、ギャラリー・トークを開催、作品ひとつひとつの撮影時のエピソードなどについて菊

地さんによる解説をした。参加者 95 名。

g. 所　見：(株)エンレイ、唐松岳頂上山荘、信濃毎日新聞社、冷池山荘、ニコンカメラ販売(株)、日本発色(株)、(株)白馬館、白馬観光開発(株)、フジフイルムイメージテック(株)、(株)フレーマン、ラフマミレー(株)、(株)ワコールの協賛により、ポスターの製作やプリント制作の負担をいただいた。昨年度の近藤辰郎写真展に次いで経理面からも新たな手法を手がけることができた。また、ギャラリー・トークは作品の持つ意味や内面に潜んでいる作者の思いなどを知っていただく良い機会であった。

(4)その他(ミニ企画展示、新着資料展示、移動展示など)

①鳥の羽を拡大してみました(担当：宮野)

a. 会　期：平成 18 年 9 月 1 日(金)～9 月 18 日(月)

b. 会　場：2階レクチャースペース

c. 概　要：大型プリント(103×145cm)によるライチョウ、トビ、フクロウの羽を紹介。フクロウの羽についている毛が羽ばたきの音を吸収する解説をつけた。

②新着資料展「山岳画家・牧潤一　ペン画作品展(前編)」(担当：関)

a. 会　期：平成 18 年 9 月 12 日(火)～27 日(水)

b. 会　場：ホール・特別展示室

c. 概　要：山岳画家・牧潤一氏から寄贈された、同氏が描いたヒマラヤの山々のペン画プリント作品 24 点を展示。

③登山史見て歩き隊パネル展(担当：関)

a. 会　期：平成 18 年 9 月 23 日(土・祝)～10 月 9 日(月・祝)

b. 会　場：2 階ホール(レクチャースペース)

c. 概　要：大町市内に残る登山の歴史にまつわる場所を写真パネルなどで紹介。毎週末に展示解説や野外観察などを行なう「山博おもしろミニゼミ」のひとつとして、今年 4 月から 8 月にかけて「大町市内の山岳文化史跡探訪　登山史見て歩き隊」と題し、大町市内に残る登山史などにまつわる山岳文化史跡ゆかりの場所を見学して巡る催しを開催した。毎回探訪地域をかえ全 5 回にわたって見て歩いた山岳文化史跡について、参加者と博物館スタッフが写真パネルなどにまとめ紹介した。

④　拡大してみよう(担当：宮野・清水)

a. 会　期：平成 18 年 11 月 15 日(水)～

b. 会　場：2 階レクチャースペース

c. 概　要：生物の体の構造のふしぎについてを紹介するため、トビ、フクロウの羽の拡大写真、ノシメトンボの全身および部分拡大写真を、大型プリント(103×145cm)にて展示した。

⑤新着資料展「山岳画家・牧潤一　ペン画作品展(後編)」(担当：関)

a. 会　期：平成 18 年 11 月 28 日(火)～平成 19 年 1 月 21 日(日)

b. 会　場：ホール・特別展示室

c. 概　要：前編の展示(平成 18 年 9 月 12 日～26 日)に引き続き、山岳画家・牧潤一氏から寄贈された、同氏が描いたヨーロッパアルプスや北米などの山々の山岳のペン画プリント作品 14 点を展示。

⑥「安曇野アートライン美術館展」(担当：関)

a. 会　期：平成 19 年 1 月 20 日(土)～2 月 18 日(日)

b. 会　場：国営アルプスあづみの公園　テーマ展示館　多目的ホール(安曇野市)

c. 概　要：安曇野アートライン推進協議会に加盟する美術館・博物館所蔵の作品や、各館の紹介パネルなどを展示。公園の来館者に安曇野のアートにふれていただいた。各館をめぐるスタンプラリーも同時開催。当館からは山川勇一郎作のペン・水彩画 4 点を出品。

2. 教育活動

(1) おもしろ山博ミニゼミ

平成 14 年から毎週末に開催。館内での講座や野外での自然観察などを行ない、館内の場合、基本的に 1 日 2 回(同じ内容)、1 回 10～20 分程度の所要時間。野外の場合、半日あるいは終日の所要時間で 1 日 1 回開催。内容は展示に付随する解説、研究の成果、タイムリーな話題など幅広い分野において実施。本年度は 4 月から 10 月までは土・日曜日、11 月から 3 月までは日曜日の開催とした。

参加者は市外・県外からの来館者がほとんどであり、そうした方々に北アルプス山麓の自然に関する話題や展示資料の詳しい紹介を行なうことで、館内の見学に付加価値を得て帰っていただくケースが多い。また、市民のなかには、定期的に参加いただける方や、テーマに興味を持って参加していただける方もいる。

開催日			題名(担当)＊館外活動の場所(空白は館内)	参加者数		
月	日	曜		大人	子供	計
4	1	土	クルミを食べたのはだ～れ(清水)	8	4	12
	2	日	春の山に登ろうー天候・装備ー(柳澤)	7	0	7
	8	土	カタクリの一生(千葉)	14	2	16
	9	日	ライチョウの不思議(宮野)※常盤公民館	0	0	0
	15	土	雪形ってなーに？(関)	5	0	5
	16	日	菊池哲男ギャラリートーク(宮野)	42	0	42
	22	土	ミズバショウと孫悟空(千葉)	0	0	0
	23	日	登山史見て歩き隊①市街地編(関)	6	1	7
	29	土	付属園の動物ウォッチングⅠ(清水)	15	11	26
	30	日	付属園の動物ウォッチングⅡ(宮野)	0	14	14
5	3	水	付属園の動物ウォッチングⅢ(宮野)	3	9	12
	4	木	付属園の動物ウォッチングⅣ(宮野・清水)	4	11	15
	5	金	付属園の動物ウォッチングⅤ(清水)	3	5	8
	6	土	付属園の動物ウォッチングⅥ(清水)	9	11	20
	7	日	付属園の動物ウォッチングⅥ(清水)	1	4	5
	13	土	絶滅危惧植物サクラソウって知ってる？(千葉)	2	0	2
	14	日	小鳥の声を聞く会(清水)	26	9	35
	20	土	ライチョウの腸(宮野)	11	3	14
	21	日	コマクサとマルハナバチ(千葉)	7	0	7
	27	土	ギフチョウとカンアオイ(清水)	6	1	7
	28	日	登山史見て歩き隊①平編(関)	8	3	11
			菊池哲男ギャラリートーク(宮野)	53	0	53
6	3	土	梅雨時の山(柳澤)	6	0	7
	4	日	ライチョウの足(宮野)	5	0	5
	10	土	日本最小のトンボ「ハッチョウトンボ」(清水)	41	0	41
	11	日	コマクサVSマルハナバチ(千葉)	11	0	11
	17	土	慎太郎祭の想い出(柳澤)	1	0	1
	18	日	雪形ってなーに？(関)	5	0	5
	24	土	絶滅危惧植物ササユリって知ってる？(千葉)	3	0	3

開催日			題名（担当）＊館外活動の場所（空白は館内）	参加者数		
月	日	曜		大人	子供	計
6	25	日	登山史見て歩き隊③鷹狩山編（関）	5	0	5
7	1	土	夏山登山で気をつけたいこと（柳澤）	0	0	0
	2	日	北アルプスにいるライチョウは何羽？（宮野）	32	0	32
	8	土	美術資料紹介「夏の栂池高原」（関）	4	0	4
	9	日	絶滅危惧植物トキソウって知ってる？（千葉）	1	1	2
	15	土	まむしに喰われた話（柳澤）	8	0	8
	16	日	美術資料紹介「ヒマラヤの山村」（関）	22	0	22
	22	土	カブトムシの眼から見た里山環境（清水）	14	1	15
	23	日	企画展「くさばなの一生」解説	16	1	17
	29	土	ライチョウと地球の温暖化（宮野）	5	7	12
	30	日	登山史見て歩き隊④高瀬入編（関）	9	7	16
8	5	土	外来生物とは（清水）	3	2	5
	6	日	ライチョウの子離れ・親離れ(宮野)	23	5	28
	12	土	企画展「くさばなの一生」解説（千葉）	14	1	15
	13	日	大町の山と街を見てみよう（関）	31	2	33
	19	土	ラサ（チベット）へ行ってきました	65	3	68
	20	日	企画展「くさばなの一生」解説	12	0	12
	26	土	ライチョウの群	38	2	40
	27	日	登山史見て歩き隊⑤仁科三湖編(関)	8	0	8
9	2	土	中高年のヒマラヤトレッキング（柳澤）	5	0	5
	3	日	秋の鳴く虫（スズムシの飼い方）（清水）	13	1	14
	9	土	毒草トリカブトはマルハナバチと相思相愛（千葉）	3	2	5
	10	日	この時期、ライチョウのヒナは若鳥へ	33	0	33
	16	土	芝ぞり（柳澤）	5	0	5
	17	日	アリとコオロギ（清水）	21	1	22
	23	土	キノコ学習会（千葉）	25	1	26
	24	日	登山見て歩き隊の活動報告（関）	4	0	4
	30	土	北鎌尾根の二重遭難（柳澤）	22	0	22
10	1	日	ライチョウがコマクサをパクリッ（千葉）	13	0	13
	7	土	山で火をたく方法（柳澤）	43	0	43
	8	日	山岳文化史跡紹介（関）	27	0	27
	14	土	ライチョウの飼育（宮野）	14	0	14
	15	日	虫こぶってなーに？（清水）	9	1	10
	21	土	江戸時代にもライチョウ飼育が…（宮野）	2	0	2
	22	日	種のふしぎ（千葉）	15	0	15
	28	土	山で作る担架（柳澤）	5	0	5
	29	日	ヨーロッパでのライチョウ飼育（宮野）	16	0	16
11	5	日	ナイロンザイル事件（柳澤）	23	0	23
	19	日	山人と山案内人（関）	9	0	9

開催日			題名(担当)＊館外活動の場所(空白は館内)	参加者数		
月	日	曜		大人	子供	計
11	26	日	ホシガラスの貯食行動(清水)	9	1	10
12	3	日	初冬の山の遭難(柳澤)	19	0	19
	10	日	タネのゆくえ(千葉)	9	0	9
	17	日	親子探鳥会(清水)	7	12	19
	24	日	手作りの漁労・狩猟具(関)	11	0	11
1	7	日	雪洞のつくり方(柳澤)	0	0	0
	14	日	フクジュソウの生活を見てみよう(千葉)	2	0	2
	21	日	冬のライチョウのエサ(宮野)	4	0	4
	28	日	山人たちの系譜展解説①(関)	25	0	25
2	4	日	企画展解説②イワナと釣具　毛針を投げてみよう(清水)	8	3	11
	11	日	企画展解説③山人の源流をさぐる	6	0	6
	18	日	タネで一日の運勢を占いましょう	5	7	12
	25	日	企画展解説④嘉門次,品右衛門,喜作　-登山史上の姿と実像-	5	0	5
3	4	日	企画展解説⑤ライチョウを食べた話	9	0	9
	18	日	企画展解説⑥山人の系譜をたどる	6	0	6
	25	日	企画展解説⑦小林喜作　棒小屋沢の遭難	33	0	33
参加者数合計				1,077	149	1,226

①山博おもしろミニゼミ「大町市内の山岳文化史跡探訪　登山史見て歩き隊」(担当:関)

a. 期　日:平成 18 年 4 月～8 月の毎月第 4 日曜日(7 月のみ第 5 日曜)

b. 場　所:市内各所

c. 参加者数:22 名(延べ人数 45 名)

d. 関係イベント:

・登山史見て歩き隊パネル展(場所:2 階ホール)　9 月 23 日(土・祝)～10 月 9 日(月・祝)

e. 概　要:ミニゼミのひとつとして、平成 18 年 4 月から 8 月までの毎月 1 回開催。毎回、探訪地域をかえて全 5 回開催し、大町市内に残る登山史などの山岳文化史にかかわる現地を学芸員と一緒に見て歩いた。全回終了後、現地見学の結果として、見て歩いた山岳文化史跡の記録を隊員である参加者と学芸員が一緒にまとめ、館内でパネル展示した。「山岳文化都市」を宣言している大町市の市街地周辺にある身近な“山岳文化史跡”に少しでも興味を持っていただく機会になった。

各回の期日と内容などは以下の通り。

・第 1 回　4 月 23 日(日)　登山史見て歩き隊①　市街地編(市街地～常盤泉地区)

・第 2 回　5 月 28 日(日)　登山史見て歩き隊②　平編(平大出～野口地区)

※雨天により館内で座学

・第 3 回　6 月 25 日(日)　登山史見て歩き隊③　鷹狩山編(鷹狩山周辺)

・第 4 回　7 月 30 日(日)　登山史見て歩き隊④　高瀬入編(高瀬入～高瀬ダム周辺)

・第 5 回　8 月 27 日(日)　登山史見て歩き隊⑤　仁科三湖編(木崎湖周辺)

②小鳥の声を聞く会(担当:清水)

a. 開催日:平成 18 年 5 月 14 日(日)

b. 場　所:山岳博物館から鷹狩山山頂

c. 講　師:腰原正己・鳥羽悦男・長澤修介

d. 協　力:博物館友の会
e. 参加者数:大人 26 名　子供 9 名　計 35 名
f. 概　要:野鳥を中心とした自然観察会を大町市児童センター・山岳博物館友の会の協力を得て実施した。観察した鳥類は、メジロ(営巣)・サンショウクイ(営巣)・エナガ(営巣)・サンコウチョウ・オオルリ・ノジコなど計 38 種。

鷹狩山での野鳥の出現は、例年より1週間、繁殖行動は2週間程度遅れているように感じられた。この観察会は、今回で 26 回を数え鷹狩山での野鳥の生息動態に関する調査記録を蓄積した。このような定点調査を継続することにより重要な資料が得られる。

③キノコ学習会(担当:千葉)
a. 開催日:平成 18 年 9 月 23 日(日)
b. 場　所:山岳博物館から鷹狩山周辺
c. 講　師:飯島八郎・高野哲哉・清沢由之
d. 参加者数:26 名
e. 概　要:参加者を 4 班に編成し、観察を行った。キノコ等を通して自然の仕組みと付き合い方を考えることを目的として実施した。野外で指導やテキスト配布は効果的であり、キノコを通して自然の仕組みや付き合い方を理解してもらえたと思う。

昨年まで友の会より無料で振舞われていたキノコ汁は、今年は 100 円を徴収した。

④親子探鳥会(冬鳥の観察会)(担当:清水)
a. 開催日:平成 18 年 12 月 17 日(日)
b. 場　所:木崎湖周辺
c. 講　師:腰原正己・鳥羽悦男・長澤修介
d. 参加者数:大人 7 名　子供 12 名　計 19 名
e. 概　要:今回は木崎湖南端より湖の東側遊歩道を通り、稲尾沢までを往復する観察コースで自然観察会を実施した。記録した鳥類はオオバン・カワアイサなど 19 種であった。犀川ダム湖など餌付けされている鳥を観察するのと異なり、人の気配を感じると逃げていく自然(野生)の姿の鳥を観察した。近年観察例が増えているカイツブリとカンムリカイツブリ、ハジロカイツブリの違いのほか、リスの食痕(アカマツの球果)などどもしっかりと観察できた。参加者からは、時折小雨が降る寒い中での観察であったが、ゆっくりと湖岸を散策することにより、大町の身近な自然環境を知ることができたとの感想が聞かれた。

(2)学習会・講座の開催

①春の動物写生大会(担当:関)
a. 開催日:4 月 29 日(土・祝)・30 日(日)、5 月 3 日(水・祝)～7 日(日)
b. 場　所:付属園
c. 講　師:荒井泰三(写生指導)
d. 協　力:博物館友の会
e. 参加者数:166 名(園児 25 点、小学生 131 点、中学生 10 点)
f. 関係イベント:
・山博おもしろミニゼミ「付属園の動物ウォッチング」 会期中の毎日
・写生画審査会(場所:講堂) 5 月 11 日(木)
・中部ブロック写生コンクール　6 月 11 日(日)
(主催:日本動物園水族館協会中部ブロック、場所:名古屋市東山総合公園)
・写生画表彰式(場所:講堂) 7 月 17 日(月・祝)

g. 概　要:市内や周辺の幼稚園・保育園の園児、小・中学校の児童・生徒を対象にした付属園の動物や園内風景を画題とする写生大会。動物に親しみながら写生を楽しむ機会を提供し、毎年好評である。はじめての試みとして、開催期間中の毎日、山博おもしろミニゼミ「付属園の動物ウォッチング」を開催し、飼育動物の生態、身体のしくみや特徴などを学芸員が説明した。

②居谷里の自然にせまる in 山博(担当:千葉)

a. 開催日:平成 18 年 11 月 12 日(日)

b. 場　所:講堂

c. 報告者:金指あやこ((独)森林総合研究所)、 鈴木和次郎((独)森林総合研究所)、
長野康之(国際アウトドア専門学校)、 横井秀一(岐阜県森林研究所)、
清水隆寿(大町市文化財センター)

d. 協　力:大町市教育委員会生涯学習課文化財係

e. 参加者数:41 名

f.所　見:大町市は自然環境に恵まれた地域であり、これまでに多くの調査研究がなされてきた歴史がある。しかしながら、それらはこれまでに市民をはじめ地域住民に還元されることがほとんどなく経過してきた。昭和 46 年に県の天然記念物に指定された居谷里湿原においてもまた多くの調査研究がなされてきた。そこで、現在、居谷里湿原で調査研究を行っている研究者また管轄する文化財センターから、居谷里湿原の現状について発表してもらった。発表後はパネルディスカッションにより会場からも多くの質問が寄せられた。また行ったアンケートから参加者が充分に理解を得たと思われる結果を得ることができた。

(3)学校との連携、融合

期日	内容(館外の場合:実施場所)	対象校・学年など	参加者数	担当
4 月 25 日	総合的な学習　地域の自然	大町東小 4 年	4 名	清水
4 月 26 日	図工の学習 付属園飼育動物観察	大町東小 2 年	51 名	清水
5 月 23 日	登山事前学習会	大町仁科台中 2 年	150 名	柳澤、宮野
5 月 24 日	遠足で地域を知る学習	大町北小 3 年	95 名	清水、千葉、関
5 月 24 日	遠足で地域を知る学習	大町美麻小 1～3 年	46 名	宮野
6 月 3 日	総合的な学習ヒメギフチョウ(大町北小)	大町北小 6 年 1 組	50 名	清水
6 月 14 日	総合的な学習　地域学習	白馬高校 1 年	37 名	宮野、清水、関
6 月 20 日	登山事前学習会	大町高校1年	145 名	柳澤
6 月 21 日	総合的な学習　仁科三湖や農具川の生物(農具川)	大町第一中 1 年	24 名	清水
6月 21 日	総合的な学習　地域学習	白馬高校 1 年	36 名	宮野、清水、関
7月7日	登山事前学習会(大町第一中)	大町第一中 2 年	147 名	柳澤
7月7日	総合的な学習　仁科三湖の水中生物、外来魚の影響等(農具川)	大町第一中 1 年	24 名	清水
7 月 18 日	甲虫類のマーキング(大町北小)	大町北小生物ｸﾗﾌﾞ	20 名	清水
7月 20 日	野外実習事前学習　花と昆虫の共進化(大町高校)	大町高校 1 年	40 名	千葉
7 月 24・25 日	職業体験学習　動物飼育	小谷中 3 年	2 名	飯島、前橋
8月2日	野外実習事前学習　身近な自然、湿原の二次遷移(親海湿原)	大町高校 1 年	40 名	千葉

期日	内容(館外の場合:実施場所)	対象校・学年など	参加者数	担当
8月29日	青木湖キャンプ体験学習　水中生物(青木湖)	大町仁科台中1年	24名	清水
8月29・30日	職場体験学習　動物飼育	大町第一中2年	2名	飯島,前橋,岩本
9月5・6日	職業体験学習　動物飼育	大町仁科台中2年	2名	飯島,前橋,岩本
9月5日	総合的な学習　雪形、大町の山	大町仁科台中1年	13名	宮野、関
9月26日	危険動物に出会わない心がけと出あったときの対処(小谷小学校)	小谷小1～6年	181名	宮野
9月26日	危険動物に出会わない心がけと出あったときの対処(小谷中学校)	小谷中1～3年	100名	宮野
10月24日	職業体験学習　動物飼育	八坂中1年	1名	前橋、岩本
11月3日	総合的な学習　簗場周辺の鳥	大町北小6年	5名	清水
11月24日	職業研究	大町北高校1年	7名	清水
平成19年 2月2日	社会科授業「地域」	大町東小4年	56名	関
2月15日	社会見学	松本市立旭町中学校桐分校	10名	柳澤
3月8日	総合的な学習　現地へ足を運び、自分で調べ感じてくる	大町南小4年	28名	清水、関
実施回数 28回		学校数 14校	参加者数合計 1,340名	

(4)学芸員実習の受入(調整:宮野)

期　日	実　習　者	人員	担当
平成18年 9月14日～24日	愛媛大学理学部生物地球圏科学科4年 信州大学理学部地質学科4年 信州大学理学部生物科学科4年	1名 1名 1名	柳沢、宮野、清水、千葉、関
10月18日～27日	信州大学理学部物質循環学科4年 高知大学理学部自然環境科学科4年	1名 1名	柳沢、宮野、清水、千葉、関
	合　計	5名	

学芸員実習は博物館における実践的な側面の学習を主眼におき、山岳博物館では 10 日間の実習を原則としてしている。本年は5名を受け入れ、受付業務、資料整理、教育普及等の実習を行い、特にキノコ展や山岳博物館の歩み展の準備等の実習では多くの時間をさいて実習にあたった。

(5)各種観察会・学習会への協力

①共催事業

a. 企画展開催記念・友の会総会記念講演会(担当:関)

・演題:「嘉門次、品右衛門、喜作　登場の背景」、講師:山岳ジャーナリスト・菊地俊朗氏
・開催日:平成19年3月11日(日)
・場　所:講堂
・共　催:山博友の会
・参加者数:約80名
・関係イベント:企画展「北アルプス　山人たちの系譜　―嘉門次、品右衛門、喜作　登場の背景―」

（会期：平成 19 年 1 月 27 日（土）～3 月 25 日（日）、会場：特別展示室・ホール）

・ 概　要：この講演会は、企画展の開催に合わせたものであるとともに、毎年この時期に行なっている当館友の会総会における記念講演会を兼ねた。講師に松本市在住の山岳ジャーナリスト・菊地俊朗氏を招きし、北アルプスの山人である上條嘉門次、遠山品右衛門、小林喜作が、国内の近代登山史に登場することになった背景について、当時の社会・経済状況などといった時代的背景を解説いただき、かれら三人の実像について迫った。参加者のアンケートからは「登山の歴史を見るおもしろさを再確認した」、「山人の背景が多角的に語られ認識できた」、「独自の視点に立った三人の人物評はおもしろかった」、「（三人に関して）大系的な歴史的な文献がないにも関らず、詳細な調べを分かり易く講演されて大変興味深かった」など、好評をいただいた。

②協力事業（調整：宮野）

期日	内容（場所）など	主　催	参加者数	担当
4 月 8・16・29 日、5 月 6・7・27 日、6 月 4・17 日 7 月 1・22 日、8 月 5 日、9 月 17・23・24 日、12 月 16 日 2 月 10 日　3 月 10 日	里山の甲虫調査・昆虫の体の構造を調べる・水鳥の学習	山博友の会「子供探検クラブ」	延べ 63 名	清水
5 月 3 日	植物観察会（居谷里湿原）	大町市文化財センター	40 名	千葉
5 月 12 日	ライチョウの生態（甲府市）	山梨県山岳連盟	90 名	宮野
5 月 11・21 日	雪形のある風景写真展（ギャラリーいーずら）	大町市、北アルプス雪形まつり実行委員会	出展数 8 点	関
5 月 14 日	雪形なんでも座談会（ギャラリーいーずら）	大町市、北アルプス雪形まつり実行委員会	7 名	関
5 月 13・14 日	雪形ウォッチング（市内～南・北安曇郡内）	大町市、北アルプス雪形まつり実行委員会	46 名	関
5 月 21 日	第 4 回北アルプス雪形まつり（大町市文化会館）	大町市、北アルプス雪形まつり実行委員会	約 1,500 名	関
5 月 27 日	親子レクリエーション・自然を使ったゲーム（大町公園）	大町西小２年２組学級 PTA	70 名	宮野
5 月 29 日	自然に関した学習会（ふれあいプラザ）	南小児童クラブ	60 名	宮 野 清水
6 月 4 日	針ノ木慎太郎祭自然観察会（針ノ木雪渓周辺）	慎太郎祭実行委員会	30 名	千葉
6 月 9 日	信州山案内人試験（山岳センター人工岩場）	長野県山岳総合センター	30 名	柳澤
6 月 22 日	高齢者学級「ライチョウの話」（情報コミュニティーセンターアキツ）	八坂公民館	84 名	宮野
7月 13 日	村民登山事前講習会（松川村公民館）	松川村公民館	40 名	柳澤
7月 21 日～23 日	研修会講師（鹿島槍ケ岳北俣本谷支流三ノ沢）	長野県山岳総合センター	26 名	柳澤
8 月 11 日	夏休み子ども昆虫教室（大町市児童センター）	大町市児童センター	30 名	清水

期日	内容(場所)など	主　催	参加者数	担当
9 月 29 日	人権を考える市民の集い「危険動物に出会わない心がけ」(常盤公民館)	大町市・大町市教育委員会	50 名	清水
9 月 30 日	仁科三湖クリーンラリー講師(木崎湖)	大町市生活環境課	30 名	清水
10 月 28 日	人権を考える市民の集い「危険動物に出会わない心がけ」(大町公民館分室)	大町市・大町市教育委員会	50 名	宮野
10 月 28 日	秋の高瀬渓谷　紅葉ｳｫｯﾁﾝｸﾞ」(金沢広場～七倉ダム)	国土交通省北陸地方整備局大町ﾀﾞﾑ管理所	40 名	清水
H19 年 2 月 3 日	生涯学習のまちづくり出張講座「ﾌｸﾛｳの生態と環境」(大町市総合福祉ｾﾝﾀｰ)	大町地区社会福祉協議会	23 名	宮野
2 月 15 日	飼育技術者資格試験試験官(長野市茶臼山動物園)	日本動物園水族館協会	3 名	清水
3 月 3 日	北アルプス塩の道ﾌｫｰﾗﾑルート背景「北アルプスの魅力」(サン・アルプス大町)	北アルプス塩の道交流会議	約 100 名	関
		参加者数合計	約 2,420 名	

(6)テレビ、ラジオへの出演(調整:宮野)

放送日	放送局名	番　組　名	形　態	内　　容	出演者
8 月 21 日	NHK 総合テレビ	ふれあいプラザ	生出演	企画展「くさばなの一生」解説	千葉
8 月 29 日	NHK ラジオ	もぎたて信州朝一番	生電話取材	企画展「くさばなの一生」解説	千葉
10 月 17 日	NHK ラジオ	もぎたて信州朝一番	生電話取材	企画展「ライチョウの生態と飼育」解説	宮野

(7)収蔵資料などの貸出(調整:宮野)

期　日	企画展・書籍・番組等	貸出先	貸出資料
平成 18 年 4 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日	教育普及用	新潟県	ライチョウ剥製 2 点
	常設展示用	京都市動物園	カモシカ骨格標本 2 点
5 月 10 日(平成 18 年 3 月 8 日～)	『なるほど知図帳　長野』(昭文社刊)	㈱コパニカス	画像データ 9 点
5 月 31 日	企画展「異人たちが訪れた立山カルデラ」	立山カルデラ砂防博物館	画像データ 3 点
7 月 13 日	『中経連』8 月号	社)中部経済連合会	画像データ 2 点
7 月 23 日	企画展「山　記憶と表現」	田淵行男記念館	写真複製 1 点使用承諾
8 月 4 日	『岳人』11 月号	東京新聞出版局岳人編集部	写真複製 1 点掲載承諾

期　日	企画展・書籍・番組等	貸出先	貸出資料
10 月 5 日～ 平成 19 年 3 月 31 日	e-learning 講義用	信州大学	ライチョウの写真・図表 32 点掲載承諾
11 月 15 日～3ヶ年	常設展示用	富山市科学文化センター	ライチョウ剥製 1 点
12 月 13 日	中学生用副教材「ｶﾗｰﾌﾞｯｸ理科資料長野県版」	信州理科教育研究会	ライチョウ・トキ・カモシカ等写真 13 点掲載承諾
平成 19 年 1 月 12 日～	企画展「小島烏水　版画コレクション展」	横浜美術館	大下藤次郎「六月の穂高岳」など 4 点

このほかにも多数の各種照会や報道機関・雑誌編集社などによる取材や資料撮影・閲覧などがあり、随時これらに協力した。

(8)調査研究に関する発表

①植物関連（担当：千葉）

これまでの研究成果を「コマクサの生活史および繁殖特性」と題して、研究指導者である清水建美氏（信州大学名誉教授・金沢大学名誉教授）と連名で投稿、受理され 2006 年に長野県植物研究会誌第 39 号に原著論文として掲載された。

②動物関連（担当：清水）

チベット自治区ニンチェンタングラ山脈キズ峰初登頂時に採集され、当館に寄贈されたチョウ類について、「1997 年チベット南東部キズ峰登山隊により得られたチョウ類」と題して、青木俊明・山口就平氏（（財）進化生物学研究所研究員）と連名で投稿、受理され 2006 年に進化生物研究第 12 号に掲載された。

(9)アンケート調査（担当：千葉）

①企画展「くさばなの一生」にて実施（8 月 11～26 日）

夏休み期間中の博物館の利用者は、市民ではなく関東、関西、東海地方からの観光客で賑わい、リピーターではなく新規のお客であることが明らかになった。博物館の情報は、観光案内所、雑誌、口コミが半数を占め、インターネットによる情報入手はほんのわずかにすぎなかった。どの展示室に興味があったかを聞いてみると、年齢を重ねるにつれ、幼少の頃とは興味が異なる傾向が示された。

②友の会主催によるコンサートにて実施（11 月 11 日）

コンサート来聴者の年齢層は中高年が目立った。博物館へ訪れる回数を聞いてみると、年間2～3回との回答が最も多く、続いて6回以上、4～5回となった。次に博物館の過去3年に3回開催した企画展（伊藤孝一、播隆、くさばな）への関心を聞いてみると、1回との回答したものは人文・自然ともほぼ同数であった。2回以上訪れたとの回答を見てみると人文・自然のどちらか一方に偏るのではなく両方に興味があることが示された結果となった。さらに過去4年間に5回開催した特別展（穂苅三寿雄、山岳画協会、森下恭、近藤辰郎、菊池哲男）のうち、会員は特に写真展への関心が高いことが伺えたが、写真展・絵画展の両方に足を運ぶものもいることから、芸術に対しても興味を持っていることが伺える結果となった。

③居谷里湿原の自然にせまる in 山博にて実施（11 月 12 日）

参加者は 10 代～80 代までで幅広い年齢層による参加が得られ、長野県内からの参加者が大半を占め、市町村別に見てみても広い範囲からの参加が認められた。参加者の情報入手先は新聞が最も高く、続いて博物館機関紙「山と博物館」であった。

以上の結果について、現在、市内小中学生および市内在住の 65 歳以上の無料化による利用度の検討を併せて行い、解析を進めている。

(10)照会に関する履歴の保存と活用(担当:関)

今年度、人文科学系に関する外部からの照会事項について、問い合わせ受付時から対応結果にいたるまでを記録用紙に記入し、履歴を保存した。これは所蔵資料や関係する情報に関する各種照会の件数と内容を把握するために試験的に行なったものである。即答可能なものは記録していないが、133 件の照会について記録した。履歴を整理・分析し、問い合わせの多い事柄や資料に関して展示を充実させたり、より詳細な説明を行なったりするなど、今後の博物館活動に活用させたい。

3. 執筆・出版

(1)執筆

①各担当職員

当館の調査研究および教育普及事業にかかわる職員の執筆活動について、今年度の実績は以下の通り。(「山と博物館」を除く)

a. 清水

・昆虫たちの越冬シーン大図鑑

『理科教育ニュース』(執筆・監修):少年写真新聞社「2006 年 12 月 18 日　第 677 号」

②大糸タイムス連載「山博ゼミ」(調整:宮野)

地元新聞社との協力によって平成 15 年 3 月からの新聞へのシリーズ連載。当館で毎週末開催している「おもしろ山博ミニゼミ」の内容を中心にして北アルプスや身近な自然あるいは登山の歴史などについて、隔週土曜日の地元新聞紙面にて紹介している。平成 16 年 2 月までは毎週掲載していたが、同年 3 月以降は大町市文化財センターの連載が加わったため、隔週にて連載を行なっている。

新聞の紙面を借りることで、北アルプスや身近な自然あるいは登山の歴史などについて多くの方々に向けて効果的に情報発信することができる。また、記名記事であることから博物館職員の“顔”が見えるということで市民から好評を得ている。

発行月日	回	執筆者	題　　名
平成 18 年 4 月 1 日	104	関	小説「氷壁」とふたつの遭難(下)
8 日	105	柳澤	凍える
22 日	106	千葉	カタクリと昆虫たち
5 月 20 日	107	清水	糞をしたのはだ～れ？
6 月 3 日	108	宮野	ライチョウの卵
17 日	109	千葉	白いお花が大集合①　コマクサ
7 月 1 日	110	清水	アオスジアゲハの吸水行動
15 日	111	関	大町の山岳写真家・手塚順一郎(上)
22 日	112	関	大町の山岳写真家・手塚順一郎(下)
8 月 12 日	113	清水	ヤナギにバラの花？
26 日	114	飯島	カモシカのごはん
9 月 9 日	115	関	山と美術①百年前の山の絵　大下藤次郎
23 日	116	前橋	いろんなカモシカ
10 月 7 日	117	清水	カブトムシの幼虫

発行月日	回	執筆者	題　　名
21 日	118	柳澤	中高年登山と体力
11 月4日	119	宮野	地球の温暖化とライチョウ
18 日	120	千葉	白いお花が大集合②オヤマリンドウ
12 月2日	121	岩本	オシドリ夫婦はうわべだけ!?
16 日	122	千葉	白いお花が大集合③オヤマノエンドウ
30 日	123	飯島	猪突猛進
平成 19 年 1 月 13 日	124	柳澤	雪崩
27 日	125	前橋	季節の到来
2 月 10 日	126	宮野	ライチョウの盲腸
24 日	127	岩本	ミミズクとフクロウ
3 月 10 日	128	関	山と美術②山岳画家・中村清太郎
24 日	129	柳澤	昭和 30 年ごろの登山用具

(2)出版

①新規出版物

a. 企画展示解説書

・『くさばなの一生　日本の草本と外来草本の生活史－その営みとなぞにせまる!!－』監修／清水建美（担当：千葉）

（発行日：平成 18 年 7 月 22 日、発行部数：500 部、体裁：A4 判、66 頁（カラー47 頁）、定価：500 円）

※博物館HPにおいてPDF形式で閲覧できるように対応。

・『山岳博物館創立 55 周年記念　博物館のあゆみ』編集／山岳博物館（担当：千葉）

（発行日：平成 18 年 10 月 28 日、発行部数：50 部、体裁：A4 判、29 頁単色）

※手作りで希望者に無料配布、博物館HPでもPDF形式で閲覧できるように対応。

・『北アルプス　山人たちの系譜　―嘉門次、品右衛門、喜作　登場の背景―』（担当：関）

（発行日：平成 19 年 1 月 27 日、発行部数：500 部、体裁：A4 判　単色　46 頁）

b. 展示解説情報シート

常設展示に関して、展示解説パネルでは紹介しきれない情報を項目ごとにまとめた A4 判のカラー版。館内にて 1 部 30 円で販売しており、今年度は 1,233 部の利用があった。

c.『山と博物館』（担当：関）

昭和 31 年 2 月に『やまと博物館』として創刊（昭和 32 年 1 月に改題）した当館編集・発行による月刊機関誌。毎月、各分野の方々に原稿を寄せていただくなどして、北アルプスを中心とした山岳の自然や歴史などの「山岳文化」と博物館の活動について広く情報発信を続けている。

毎月 25 日発行、発行部数 1,000 部。体裁 A4 判、二ツ折 4 頁（基本型）、単色刷り。定価 100 円。年間購読料 1,500 円（送料含む）。

平成 19 年 3 月 31 日現在、購読者数 558 名。内訳は市内 130 名（有料 3 名、無料 34 名、友の会 93 名）、市外 428 名（有料 61 名、無料 270 名、友の会 97 名）

巻号	月	頁	題　　名	著者名
51・4	4月	①	崇高なる白馬岳（1 月）＊	菊池哲男
			開催にあたって	（大町山岳博物館）
		②～④	白馬　SHIROUMA	菊池哲男

巻号	月	頁	題　　名	著者名
51・5	5月	①	巣作りをしているサンショウクイのツガイ	長澤修介
			サンショウクイ	清水博文
		②～④	ニホンカモシカを題材とした教育プログラムの開発に取り組む	宮野典夫
51・6	6月	①	（展示パネルの一部:コマクサの細密画） ＊	（大町山岳博物館）
			開催にあたって	大町山岳博物館
		②～④	くさばなの一生　－日本の草本・外来草本の生活史－ その営みとなぞにせまる!!	清水建美（編著）
51・7	7月	①	立山カルデラ上空より（10 月） ＊	（立山ｶﾙﾃﾞﾗ砂防博物館）
			異人たちが訪れた立山カルデラ	高野靖彦
		②～③	平成 16・17年におけるライチョウの観察記録	清水博文
		④	バックナンバーのお知らせ	山岳博物館
51・8	8月	①	第 51 回中部ブロック動物園水族館写生コンクール受賞作品（一部） ＊	伏身輝、大日方樹、 堀内雅敏、浅野豪
			企画展「動物写生画展」を終えて	関悟志
		②～④	カモシカのあしあと（前編）	山田雄作
50・9	9月	①	飛翔するオスのライチョウ ＊	平瀬貴志
			企画展の開催にあたって	大町山岳博物館
		②～④	企画展「ライチョウの生態と飼育」	宮野典夫
51・10	10月	①	各自でキノコ同定（できるかな？） ＊	（大町山岳博物館）
			キノコ展を終えて	千葉悟志
		②～④	カモシカのあしあと（後編）	山田雄作
51・11	11月	①	開館当初の山岳博物館。建物は初代（1951～1957）のものです ＊	（大町山岳博物館）
			創立五十五周年を迎えて	柳澤昭夫
		②～④	山岳博物館創立五十五周年記念　博物館のあゆみ（前）	大町山岳博物館
51・12	12月	①	現在の山岳博物館　建物は三代目（1982～）です ＊	（大町山岳博物館）
			未来に向かって	大町山岳博物館
		②～④	山岳博物館創立五十五周年記念　博物館のあゆみ（後）	大町山岳博物館
52・1	1月	①	＊	（大町山岳博物館）
			開催にあたって	大町山岳博物館
		②～④	企画展「北アルプス　山人たちの系譜　―嘉門次、品右衛門、喜作　登場の背景―」	大町山岳博物館
52・2	2月	①	木崎湖畔での野鳥の観察 ＊	（大町山岳博物館）
			親子探鳥会「冬鳥の観察会」事業報告た	大町山岳博物館
		②～④	タウンウォッチングによる教育普及活動の事例（報告）－山博おもしろミニゼミ「大町市内の山岳文化史跡探訪　登山史見て歩き隊」－	関　悟志
52・3	3月	①	菊地俊朗氏による講演のひとコマ ＊	（大町山岳博物館）
			記念講演会を開催しました	大町山岳博物館
		②～④	ザラ・針ノ木越えの検証（一）	小林茂喜

*印は表紙写真等を示し、この場合の著者名は撮影・提供者名等を記した。

d. 年報（担当：関）

『平成 17 年度年報』（発行日：平成 18 年 7 月 12 日、発行部数：200 部、体裁：A4 判、42 頁、単色刷り）を編集・発行した。

②販売中の出版物

現在、販売中の当館編による出版物は以下の通り。（平成 19 年 3 月 31 日現在）

書　名	発行先	発行年	備　考
山と博物館	大町山岳博物館	毎月 25 日	年間購読、館内販売
展示解説情報シート	大町山岳博物館	随時更新	館内にて販売中
北アルプスの自然と人（展示案内書）	大町山岳博物館	2005 年	〃
カモシカ　氷河期を生えた動物	信濃毎日新聞社	1991 年	書店にて販売中
ライチョウ　生活と飼育への挑戦	信濃毎日新聞社	1992 年	〃
新・北アルプス博物誌	信濃毎日新聞社	2001 年	〃
ブルーガイド旅読本 上高地　安曇野　輝ける大地の自然と人	実業之日本社	2002 年	〃

4. インターネット・ウェブサイト

(1)公式ウェブサイト（担当：千葉）

今年度は、『なるほど北アルプス画像館』に「今日の北アルプス」、『研究・報告書』に「ライチョウ関連報告書」・「年報」・「研究発表会資料」、『付属園』に「アニマルウォッチング」を新設し、『お知らせ』はほぼ毎日、『学芸員情報情報』は 16 の話題、『飼育員の奮闘記』は 17 の話題を提供し、また喫茶売店こまくさの紹介や同所で行われた作品展のPRにも努めた。

URL：http://www.city.omachi.nagano.jp/sanpaku/

(2)安曇野アートラインウェブサイト（担当：関）

当館が加盟する安曇野アートライン推進協議会では、平成 17 年 4 月にウェブサイトを開設したていたが、平成 18 年 9 月にサイトを充実させてリニューアルした。ここでは当館所蔵の山岳風景画など絵画を中心に紹介し、当館公式ウェブサイトとリンクさせて企画展やイベント情報などを随時発信している。

URL：http://azumino-artline.net/museum/oomachi/

5. 友の会（担当：宮野）

(1)組織

①役員

a. 会長　長沢正彦

b. 副会長　有川劭

c. 運営部　部長：井口まり　部員：越山頼子、廣瀬誠、山崎一彦、宮澤洋介、川崎晃、川崎祐子、塩瀬淳也、松坂美治子、栗林稔、丸山卓哉

d. 編集部　部長：宮沢洋介　部員：木村節子、丸山卓哉、岑村隆

e. 事務局　田村佳美、奈須野順子、宮野典夫

f. 監　査　有川美保子、倉科恵一

②構成（平成 19 年 3 月 31 日現在）

会員種別	会員数	会員種別	員数	会員種別	員数	合計
ファミリー会員	322 名(91 ﾌｧﾐﾘｰ)	個人会員	78 名	学生会員	0 名	409 名
賛助会員	3 団体、1 名	終身会員	3 名	名誉会員	5 名	3 団体

(2)運営部

①行事

活動日	参加者	主な内容
5 月 20 日(土)	26 名	安曇野北アルプス展望のみち
6 月 24 日(土)	48 名	イブニングコンサート「フルートとギターの夕べ」
7 月 2 日(日)	28 名	史跡・美術館・博物館めぐり「栗と北斎の町-小布施」
9 月 2 日(土)～3 日	18 名	自然観察登山「四阿山・根子岳へ」
10 月 22 日(日)	21 名	塩の道を歩くⅥ「根知から糸魚川へ」
11 月 11 日(土)	72 名	イブニングコンサート「アコーディオンの夕べ」
12 月 10 日(土)	17 名	伝統技術を学ぶ「布ぞうり作り」
1 月 27 日(土)	14 名	歩くスキーと自然観察会「オリンピックコースを歩こう」
2 月 27 日(火)～ 3 月 11 日(日)	7 名 24 点	友の会作品展
3 月 11 日(日)	80 名	総会及び記念講演会(山岳博物館と共催) 記念後援:菊地俊朗「嘉門次、品右衛門、喜作　登場の背景」

②喫茶「こまくさ」の営業

営業期間は平成 18 年 4 月 15 日(土)～平成18 年11月 12 日(日)

1階ホール隣でのサービス提供

③「ゆきつばき通信」の発行

号数	発行日	主 な 内 容
119 号	4 月 1 日	行事案内…安曇野北アルプス展望のみち、18 年度予定 報告…平成 18 年度友の会総会、総会記念講演要旨　他
120 号	6 月 5 日	行事案内…栗と北斎の町－小布施、四阿山・根子岳へ、フルートとギターの夕べ 報告…安曇野北アルプス展望のみち、こまくさについて　　他
121 号	8 月 7 日	行事案内…四阿山・根子岳へ 報告…小布施、フルートとギターの夕べ、こまくさより　　他
122 号	10 月 8 日	行事案内…根知から糸魚川へ、アコーディオンの夕べ 報告…四阿山・根子岳　こまくさより　他
123 号	1 月 10 日	行事案内…オリンピックコースを歩こう、友の会作品展 報告…塩の道を歩く、布ぞうり作り　他
124 号	2 月 5 日	行事案内…総会、友の会作品展 報告…歩くスキー、運営部だより　他

(3)編集部

刊行物名	発行日	主 な 内 容
ゆきつばき 第 35 号	3 月 11 日	特集…山でばったり出会ったおはなし 友の会ひろば…行事参加者の感想 三角点…会員の投稿、雑感 行事グラフ…写真で綴る年間行事の紹介

(4)サークル活動

①子供探検クラブ

野外活動を中心になんでもやってみようという小中学生のサークル。平成 19 年 3 月 31 日現在、サークル会員は 21 名。

月　日	内　　容	参加者
4 月 8 日(土)、16 日(日)、29 日(土)、5 月 6 日(土)、7 日(日)、27 日(土)、6 月 4 日(日)、17 日(土)、7 月 1 日(土)、22 日(土)、8 月 5 日(土)、9 月 17 日(日)、23 日(土)、24 日(日)、2 月 10 日(土)、3 月 10 日(土)	カブトムシの研究	述べ 63 人
12 月 16 日(土)	水鳥の勉強会	6 名
12 月 17 日(日)	冬鳥の観察会	5 名

②烏帽子の会

山歩きのサークル。「連れてってもらう登山」ではなく「連れてってやる山行」、「次はどの山に行こう」という雰囲気で身近な山に登るサークル。平成 19 年 3 月 31 日現在、サークル会員は 10 名。

月　日	内　　容	参加者
4 月 16 日(日)	堂津山(小谷村)雪崩危険のため中止	
5 月 27 日(土)	二ツ山(松本市)	14 名
7 月 29 日(土)	美ヶ原の茶臼山(松本市)	14 名
10 月 14 日(土)	戸倉山(糸魚川)	14 名
11 月 25～26 日(土～日)	木曽殿城山(旧鬼無里村)	11 名
2 月 4 日(日)	上高地(旧安曇村)	15 名
3 月 18 日(日)	みねかたクロカンコース(白馬村)	8 名

6. ボランティア活動(担当:宮野)

(1)友の会との連携

月　日	内　　容	参加者数
5 月 14 日(日)	小鳥の声を聞く会サポート(引率)	2 名
9 月 23 日(金・祝)	キノコ学習会サポート(キノコ汁サービス)	4 名

(2)その他

月　日	内　容	個人・団体名	参加者数
4 月 29 日(土・祝)	春の写生大会指導	荒井泰三	1 名
4 月 29 日(土・祝)	博物館周辺清掃活動	天理教	約 100 名
7 月 20 日(木)	博物館周辺草刈及び清掃活動	有明高原寮	28 名

(敬称省略)

Ⅳ 動植物飼育栽培繁殖事業

1. 動物飼育繁殖(担当:清水、飯島、前橋、岩本)

付属園の今後のあり方については、博物館全体の中の事業としての位置づけ、施設の老朽化、ライチョウの生息域外保全(低地飼育)事業の凍結等多くの課題を抱えている。今後の事業展開の方向性に関しては、市民意見を反映させ、協議会などに諮りながら、設置者との調整を進め検討している。

(1)飼育動物

①飼育動物の増減

a. 繁殖個体

・キジ(オス 1・メス 2)

平成 18 年 8 月 6 日(孵化)傷病鳥獣として収容していたキジの間で繁殖した。

b. 死亡個体

・なし(傷病鳥獣として救護した個体は別記)

c. 転出

・ニホンカモシカ(メス)平成 16 年 5 月 31 日繁殖　愛称:わかば

財団法人日本動物園水族館協会ニホンカモシカ国際血統登録調整者との調整により、平成 18 年 10 月 18 日に繁殖を目的として東京都大島公園に無償譲渡した。

d. 今後の計画

ニホンカモシカについては、現在飼育している個体の高齢化、野外個体の導入の難しさ、飼育場の問題などから、平成 18 年度より繁殖がしていない。今後、友好提携を結んでいるアルペン動物園との交換動物をふまえて、国内動物園間でブリーディングローン等を行い、若い個体の確保を行いたい(現在、ブリーディングローンとして富山ファミリーパークに 1 個体貸出し中)。

シベリアオオヤマネコは単独飼育(オス)であることから、同種を飼育している財団法人日本動物園水族館協会加盟園とブリーディングローンの検討を進めている。

②飼育動物(平成 19 年 3 月 31 日現在)

種　名(哺乳類)	雄	雌	計	種　名(鳥類)	雄	雌	不明	計
ホンドタヌキ	1	1	2	オシドリ	(1)			(1)
ホンドキツネ		1	1	トビ		(1)	(6)	(7)
ハクビシン	(1)	(1)	(2)	チョウゲンボウ	(1)	(1)		(2)
シベリアオオヤマネコ	1		1	ニホンキジ	1(1)	2(1)		3(2)
ニホンカモシカ	3(2)	3(1)	6(3)	ヤマドリ	(1)			(1)
				キジバト			(1)	(1)
				オオコノハズク			(1)	(1)
				フクロウ			(1)	(1)
計	5(3)	5(2)	10(5)	計	1(4)	2(3)	(9)	3(16)

哺乳類 4(2)種・鳥類 1(8)種　合計 5(10)種 13(21)個体　※(N)の数は保護動物

この他、身近な生き物を紹介するために、博物館ホール・付属園内においてイモリ・カナヘビ・ニホントカゲなど両生類・爬虫類のほか、カブトムシ・クワガタムシのなかま・スズムシなどの昆虫類を各生物の活動時期に合わせて水槽などを用いた展示を行った。

(2)傷病鳥獣保護

長野県より平成18年度野生傷病鳥獣救護事業委託として、大町市および近隣市町村をにおける野性傷病鳥獣救護施設のひとつとして保護動物を受け入れている。

①収容個体数

哺乳類　3(2)種 4(5)個体

(ニホンカモシカ 2(3)・ハクビシン 1(2)・アブラコウモリ 1)

鳥類　10(8)種 12(20)個体

(トビ(7)・ヤマドリ(1)・キジ 1(6)・キジバト(1)・ツバメ 3・イワツバメ 1・チョウゲンボウ 1(2)・フクロウ 1(1)・オオコノハズク(1)・オシドリ(1)・ドバト 2・ジュウイチ 1・アカゲラ 1・コゲラ 1・カモメ sp 1)

合計 17(25)個体(そのうち死亡個体 7・放鳥獣個体 8(4)・他施設への転出個体 2・現在飼育中個体 0(21))　※(N)の数は前年度からの継続依頼個体である。

②所見

死亡個体のほとんどは、収容時には処置を行っても手遅れまたは、重症の個体であり保護収容当日か数日後に死亡している。このような傾向は過去の実績からも顕著であり、早期における獣医師の処置が不可欠であると考えられる。また、半年以上収容した個体は疾病が完治しても餌付いてしまうことも多く、人工保育で育てた個体と同様、野外に復帰させることが困難となり、長期収容個体となる傾向がみられる。

2. 植物栽培繁殖(担当:千葉)

(1)栽培植物

①栽培植物の増減

新規なし。

②栽培植物

コマクサ、フクジュソウ、サクラソウ、ササユリ、ビッチュウフウロ、アズミノヘラオモダカ、イヤリトリカブト、オオシラヒゲソウ、コオニユリ、カキツバタ、クサレダマ、ミズオトギリ、ミソハギ、クララ、トキソウ

c. 今後の計画

松本市産のサクラソウによる種子繁殖および栄養繁殖で、博物館で栽培する個体数が増加した。栽培地の近隣にわずかではあるが地域に自生するサクラソウ個体が確認でき、地域固有の遺伝子が育まれている可能性がある。したがって、花粉媒介昆虫を介して松本産と大町産の交雑が生じることが予測され、これは研究主旨に反することとなる。このため、来年度以降は開花期のみ自生地から離れた場所で栽培することとし、市観光課、企画財政課、大町市観光協会の協力のもと駅周辺で栽培管理することを検討している。

また今後は湿地の植物を中心に生活史の観察を行い、まとめたものを研究発表後、企画展に反映させたい。

Ⅴ　ライチョウ保護事業（担当：柳澤・清水・宮野）

1. 大町市におけるライチョウ保護事業の展開方針

大町市では、大町山岳博物館ライチョウ保護事業検討委員会と大町市ライチョウ保護事業計画策定委員会から提出された提言を重く受け止め、教育委員会を中心に慎重に検討した結果、次のような事業展開方針を決定し、三月定例市議会（平成 18 年 2 月 28 日）において表明した。

(1) はじめに

大町市（教育委員会）では、大町市ライチョウ保護事業計画策定委員会から、ライチョウ保護を「自然と人間との共生」という大きな潮流のなかに位置付け、大町市の「まちづくり」の総合プロジェクトとするグランドデザインと、もうひとつはライチョウの将来的な危機に備えるセーフティー・ネットをいかに構築するかという学術的、技術的なパイロットプランの提言を受けた。

大町市で検討した結果、ライチョウ保護事業は本来、国等が中心となって進める事業であり、現時点では、グランドデザインを基調とした事業を大町市が実施することについては、提言を尊重しながらも、すべてを直ちに展開することは困難である。また、パイロットプランの実施にあたっては当市の財政事情を考慮すれば、国・県の支援が得られるまでは、事業を見合わせざるを得ない。

(2) 今後の方針について

①「ライチョウと共に生きる」を理念とした考え方を取り入れながら、山岳博物館が主体となってライチョウに関する事業を展開する。

②現地（生息域内）調査を中心に調査研究事業を進め、調査結果については教育普及活動等に活用する。

③ライチョウに関する教育活動を学校教育、社会教育、登山者への啓発という側面から展開し、情報の収集・発信に努める。

④パイロットプランについては現時点では計画の遂行を凍結し、国や県の援助体制や財政状況の動向をふまえて今後、実施の判断をする。

(3) 事業展開について

当面の間、現地調査、教育普及活動の2つを大きな柱にすえて、下記の内容を中心に事業を展開する。

なお、調査事業については、外部専門家を交えた委員会を設置し、具体的事業内容を決定したい。

①現地調査

a. 現状把握調査として「生息場所」、「生息数」等。

b. 生息環境調査として「植生環境」、「ライチョウをとりまく動物環境」、「積雪環境」等。

c. 繁殖調査として「採餌」、「エネルギー出納」、「遺伝的特性と多様性」等。

d. 保護対策調査として「環境の変化と生息状況の変化」等。

②教育普及活動および啓発活動

a. 登山者や山小屋からのライチョウに関する情報の収集。

b. 「企画展」「講演会」等の開催

c. ポスター・パンフレットなどの作成と配布・掲示。

d. ライチョウの生態と保護についての「副読本」「映像資料」を作成。

e. 環境教育プログラムを作成し、フィールドにおける「観察会」や学校教育での「総合学習」での活用。

(4)ライチョウ保護事業の展開における基本方針

①平成 18～20 年を第1次3ヵ年計画とし、平成 18年度は調査項目、調査地、調査方法等を確立するための基礎的事項の調査や情報収集を行う。

②平成 19・20 年度は 18年度の基礎調査をもとに、本格的調査に取り組む。

③平成 21 年度以降は、成果と評価とを勘案し次のステップに進む。

④事業は、その目的と期間を明確にし、内部評価、外部評価ができる体制をとり、調査の充実を図り、成果については幅広く公開し活用する。

⑤環境省・文化庁をはじめ、研究機関・大学・支援団体との連携により、強いネットワークのもとに、調査の向上や効率の高い教育普及活動に努める。

2. ライチョウ会議(担当:清水)

(1)ライチョウ会議

平成 18 年 6 月 27 日より会議設置要綱を改正し、会議の活動目的を明確にした。構成員にはライチョウに関わる国・県の行政担当課をはじめ、特定非営利活動法人ライチョウ保護研究会・富山雷鳥研究会・静岡ライチョウ研究会などライチョウ保護関係団体からの加入者も増え、充実した意見交換の場として機能するようになった。また、新たに議長・監事・事務局の選出を行い、大町市(市立大町山岳博物館)は引き続き事務局を委嘱された。

(2)第 7 回ライチョウ会議静岡大会

ライチョウ会議静岡大会は、国内研究者・行政関係者・環境NGO等が集まり、ライチョウに関する調査・研究の充実と現状の把握、具体的な保護活動の検討などライチョウについての知見を深め、野生動植物の保護・自然環境保全の啓発を目的として開催された。平成 18 年 8 月 26～27 日の 2 日間、静岡県静岡市もくせい会館において行政・研究者、一般市民等のべ 200 名が参加した。

世界の南限・南アルプスのライチョウを守れるか？を開催テーマとして、ライチョウをとおして南アルプスの高山環境の現状について広く知ってもらうとともに、今後の南アルプスの保全のあり方について、研究者・行政関係者の話し合いが持たれた。

1 日目は基調講演「ライチョウってどんな鳥」のほか、「南アルプス南部のライチョウについて」、「北岳におけるライチョウの行動ならびに生息環境」、「南アルプスの現状及び保護対策」等の報告が行われた。2 日目には、パネルディスカッション「南アルプスのライチョウは守れるか？」が行われた。

平成 19 年 8 月に開催予定の第 8 回ライチョウ会議長野大会(会場大町市)は、実行委員会を結成し準備を進めている。

Ⅵ その他

1. 各種委員などの委嘱

高山植物等保護対策協議会中信地区理事（柳澤）
北アルプス北部地区山岳遭難防止対策協会参与（柳澤）
大町博物館連絡会会長（柳澤）
大町市観光協会理事（柳澤）
大北地方特定鳥獣保護管理対策協議会委員（柳澤）
長野県山岳総合センター運営懇談会委員（柳澤）
ライチョウ会議構成員（柳澤）
桜まつり実行委員（柳澤、宮野）
栂池自然園地域保全委員会委員（宮野）
慎太郎祭実行委員（柳澤、千葉）
仁科三湖対策協議会（宮野）
北アルプス雪形まつり実行委員（関）

2. アルペン動物園との友好提携協定の締結

昭和 60 年 2 月 18 日、オーストリア・インスブルック市のアルペン動物園と当館は、次のような目的による友好提携協定の締結をした。
「同じような自然環境に囲まれたインスブルックと大町両市の市長は、その締結を大いに歓迎し、また両市民は文化をはじめさまざまな分野において、緊密な交流をはかり、それを通じて相互信頼と友好を深め、将来にわたって、インスブルック市と大町市の繁栄と幸福のために貢献する。」（同協定書より抜粋）

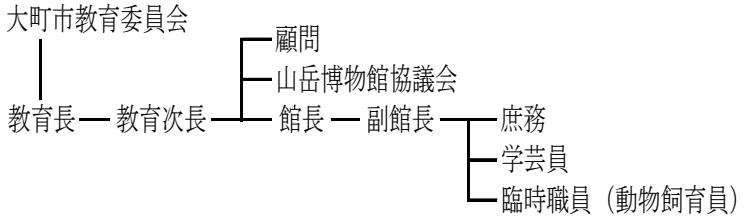
3. 信州大学山岳科学総合研究所との研究協力協定の締結

平成 17 年 7 月 5 日、信州大学山岳科学総合研究所（藤沢謙一郎所長）と当館は、次のような目的による研究協力協定の締結をした。
「山岳および大町市とその周辺地方の民俗、歴史などの資料を収集、保管、展示し一般の観覧に供し、本邦における山岳文化などの普及並びに調査研究を行う市立大町山学博物館と、信州の自然と社会をフィールドとして、山岳およびそれに連なる里山における自然と人間の相互関係にかかわる諸問題の解決を目指した研究を行い、新しい学問領域「山岳科学」を創造しようとする信州大学山岳科学総合研究所は、相互の連携の意義を深く認識し、自然と人間の共生の諸課題探求に力をあわせて貢献するため、ここに研究協力協定を締結する。」（同協定書より抜粋）

Ⅶ 運営

1. 組織および職員構成

(1)組織



(2)顧問

千葉彬司

(3)協議会委員

学校関係者:伊東一成

社会教育関係者:武田武(会長)、有川美保子、松原繁、横川仁

知識経験者:藤沢秀(副会長)、飯沢茂雄、井口まり、金原義子、高石道明、朝重孝治

(4)職員

①配置

館　長　柳澤昭夫(嘱託)

副館長　宮野典夫(学芸員兼務)

庶　務　勝山直人、平林恵理子、合津明

学芸員　清水博文、千葉悟志(自然科学系)　関悟志(人文科学系)

臨時職員　横澤志津、前橋基子、岩本尚也(動物飼育)

②人事異動

転　出　庶務・勝山直人(平成 18 年 9 月 30 日付にて生涯学習課平公民館へ)

転　入　庶務・合津明(平成 18 年 4 月 1 日付にて庶務課より)

庶務・平林恵理子(平成 18 年 10 月 1 日付にて農林水産課庶務係より)

2. 協議会

(1)第 1 回協議会

① 日　時:平成 18 年 11 月 30 日　午後 1 時～午後 3 時 30 分

② 場　所:山岳博物館　講堂

③ 出席者:武田武、藤沢秀、伊東一成、松原繁、金原義子、飯沢茂雄、高石道明、
井口まり、朝重孝治
遠藤博仁、柳澤昭夫、宮野典夫、清水博文、千葉悟志、関悟志、平林恵理子

④内　容:・報告
平成 18 年度の事業経過
・協議
平成 19 年度以降の事業計画について
付属園について

(2)第 2 回協議会

①日　時:平成 19 年 2 月 1 日　午後1時 30～3 時 30 分

②場　所:山岳博物館　講堂

③出席者:武田武、藤沢秀、伊藤一成、横川仁、有川美保子、松原繁、金原義子、飯澤茂雄
高石道明、井口まり、朝重孝治
丸山一由、柳澤昭夫、宮野典夫、清水博文、千葉悟志、市河千春

④内　容:・報告
大町市第 4 次総合計画基本構想
平成 18 年度の事業経過
・協議
付属園について

3. 入館者状況

(1)過去の入館者状況　（単位：人）

年度	有料入館者							無料入館者			
	個人			団体			計	一般減免	市内		計
	大人	高校生	小中生	大人	高校生	小中生			65 歳以上	小中生	
S26	291		100	21		77	489				
27	2,425		1,022	186		1,514	5,147				
28	8,922		2,229	725		1,216	13,092				
29	7,779		1,831	625		1,189	11,424				
30	6,831		1,664	1,445		945	10,885				
31	2,148		888	1,036		858	4,930				
32	1,934		658	826		1,880	5,298				
33	2,979		1,032	1,469		2,417	7,897				
34	2,972		626	1,727		1,788	7,113				
35	3,635		878	1,943		2,143	8,599				
36	4,181		1,329	2,132		2,521	10,163				
37	5,313		1,633	4,549		2,748	14,243				
38	6,394		1,854	4,727		2,918	15,893				
39	10,464		1,658	12,600		1,520	26,242				
40	14,214		1,696	8,050		1,600	25,560				
41	10,399		1,711	13,070		1,500	26,680				
42	12,891		1,649	8,301		3,059	25,900				
43	18,458		2,071	17,769		3,240	41,538				
44	16,273		2,100	10,845		3,749	32,967				
45	13,405		1,941	11,623		3,960	30,929				
46	18,414		3,001	14,718		3,193	39,326				
47	17,500		3,025	13,268		6,877	40,670				
48	25,809		4,178	22,612		5,774	58,373				

年度	有料入館者							無料入館者			
	個人			団体			計	一般減免	市内		計
	大人	高校生	小中生	大人	高校生	小中生			65歳以上	小中生	
49	28,702		4,277	23,432		5,843	62,254				
50	32,345		4,896	23,616		6,835	67,692				
51	32,111		5,142	25,150		8,200	70,603				
52	26,155		4,311	18,907		5,327	54,700				
53	26,346		4,158	24,903		8,722	64,129				
54	27,769		4,485	25,089		6,600	63,943				
55	25,743		4,414	19,909		6,972	57,038				
56	31,697		7,558	16,182		9,695	65,132				
57	31,894	809	6,400	10,391	5,827	6,929	62,250	7,965			7,965
58	33,590	988	6,632	15,885	7,992	12,303	77,390	9,026			9,026
59	30,335	816	5,905	12,969	9,172	15,070	74,267	8,117			8,117
60	36,686	1,142	8,025	22,782	8,559	15,902	93,096	6,770			6,770
61	34,797	1,086	6,109	16,001	8,107	16,069	82,169	4,509			4,509
62	33,132	918	5,581	18,751	7,065	17,186	82,633	3,605			3,605
63	36,116	841	5,932	14,947	6,085	14,735	78,656	6,269			6,269
H1	41,018	1,199	6,450	13,191	4,650	10,527	77,035	3,709			3,709
2	43,444	1,108	6,752	16,486	3,045	7,119	77,954	4,844			4,844
3	47,004	1,276	7,313	13,817	4,212	8,278	81,900	4,577			4,577
4	42,197	725	5,719	13,068	1,687	7,015	70,411	3,413			3,413
5	45,182	809	5,807	12,249	2,807	5,325	72,179	3,587			3,587
6	38,354	933	4,809	10,561	1,932	4,974	61,563	3,376			3,376
7	37,356	981	4,650	9,493	1,840	4,164	58,484	5,376			5,376
8	36,002	869	4,189	6,601	1,905	2,244	51,810	2,174			2,174
9	31,119	626	3,417	7,626	1,245	2,100	46,143	1,429			1,429
10	28,219	637	3,105	6,023	764	2,006	40,754	1,686			1,686
11	24,220	482	2,200	4,766	561	1,183	33,412	1,206			1,206
12	23,082	501	2,273	5,344	648	1,024	32,872	1,187			1,187
13	24,064	439	2,163	3,389	671	1,577	32,303	1,497	387	826	2,710
14	20,527	472	1,744	2,518	675	808	26,744	1,013	191	451	1,655
15	19,693	535	2,152	2,184	785	1,082	26,431	990	285	616	1,891
16	14,664	376	1,073	2,875	602	644	20,234	604	51	662	1,317
17	12,065	213	630	3,138	692	928	17,666	1011	97	491	1,599
18	14,056	135	996	3,120	545	1,836	20,688	1,825	162	688	2,675

(2)平成 18 年度の入館者状況　　（単位:人）

月	有料入館者							無料入館者			
	個人			団体			計	一般減免	市内		計
	大人	高校生	小中生	大人	高校生	小中生			65 歳以上	小中生	
4	1,132	5	35	295	0	164	1,631	221	18	19	258
5	2,508	19	170	258	4	11	2,970	515	50	329	894
6	861	4	19	206	218	0	1,308	117	1	154	272
7	1,574	7	113	331	317	1,520	3,862	293	5	1	299
8	2,501	67	398	564	5	41	3,576	171	10	5	186
9	1,123	2	25	254	1	3	1,408	118	13	29	160
10	1,758	22	34	564	0	73	2,451	88	7	56	151
11	876	0	33	375	0	6	1,290	102	15	5	122
12	350	3	86	113	0	0	552	31	26	0	57
1	263	2	9	32	0	5	311	13	3	2	18
2	516	2	18	66	0	1	603	69	4	58	131
3	594	2	56	62	0	12	726	87	10	30	127
合計	14,056	135	996	3,120	545	1836	20,688	1,825	162	688	2,675
前年度計	12,065	213	630	3,138	692	928	17,666	1,011	97	491	1599
前年度比	117%	63%	158%	99%	79%	198%	117%	181%	167%	140%	167%

(3)平成 18 年度の開館日数

315 日

4. 平成 18 年度予算・決算

(1)歳入　　（単位：円）

項　目	観覧料	望遠鏡使用料	県委託金	寄付金	雑　入	計
当初予算	9,580,000	150,000	150,000	0	805,000	10,685,000
決算額	7,365,750	107,200	190,000	1,000,000	825,965	9,488,915
	△2,214,250	△42,800	40,000	1,000,000	20,965	△1,196,085

(2)歳出　　（単位:円）

項　目	一般職員人件費	博物館管理運営経費	教育普及事業	調査研究事業	資料収集保管事業
当初予算	32,065,000	15,848,000	2,877,000	534,000	982,000
決算額	38,401,685	14,729,727	2,661,304	368,589	775,024
	6,336,685	△1,118,273	△215,696	△165,411	△206,976

項　目	動植物飼育栽培事業	ライチョウ保護事業	ライチョウ保護啓発事業	ライチョウ現地調査事業	計
当初予算	8,006,000	970,000	715,000	999,000	62,996,000
決算額	7,919,122	83,366	1,279,444	304,706	66,522,967
	△86,878	△886,634	564,444	△694,294	3,526,967

Ⅷ　関係条例・規則等

1. 市立大町山岳博物館条例

昭和 57 年 3 月 29 日
条例第 12 号

改正　昭和 61 年 3 月 24 日条例第 8 号　　平成元年 3 月 24 日条例第 7 号
平成 4 年 3 月 31 日条例第 8 号　　平成 5 年 12 月 24 日条例第 32 号
平成 12 年 3 月 29 日条例第 13 号　　平成 13 年 3 月 27 日条例第 13 号

市立大町山岳博物館条例（昭和 29 年条例第 18 号）の全部を改正する。

（目的）

第 1 条　この条例は、博物館法（昭和 26 年法律第 285 号。以下「法」という）第 18 条及び地方自治法（昭和 22 年法律第 67 号）第 244 条の 2 第 1 項の規定に基づき、市立大町山岳博物館（以下「博物館」という）の設置及び管理運営に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

（設置）

第 2 条　山岳に関する資料並びにこの地方における民俗、歴史その他の資料を収集して、保管又は展示し、一般の観覧に供し、本邦における山岳文化等の普及並びにこれらの資料の調査研究を行うため博物館を設置する。

（名称及び位置）

第 3 条　博物館の名称及び位置は、次のとおりとする。

市立大町山岳博物館　大町市大町 8056 番地1

（職員）

第 4 条　法第 4 条の規定による館長、学芸員のほか必要な職員を置く。

2　必要に応じ顧問及び嘱託員を置くことができる。

（観覧料）

第5条　博物館を観覧しようとする者は、別表第1に定める観覧料を納付しなければならない。ただし、次に掲げる者は、この限りでない。

(1) 6 歳未満の者

(2) 市内の小学校及び中学校に在学する児童又は生徒

(3) 市内に住所を有する満 65 歳以上の者

（使用料）

第 6 条　博物館の設備使用料は、別表第2に定めるとおりとする。

（観覧料の減免）

第 7 条　大町市教育委員会（以下「教育委員会」という）は、特別な理由があると認めるときは、観覧料を減免することができる。

（資料の特別利用）

第 8 条　博物館資料を学術研究等のため特に利用しようとする者は、教育委員会の承認を受けなければならない。

（賠償責任）

第 9 条　故意又は過失により、博物館の資料、施設等を破損し、又は滅失したときは、教育委員会の命ずるところにより、これを原状に復し、又は損害を賠償しなければならない。

（博物館協議会）
第 10 条　法第 22 条の規定により、市立大町山岳博物館協議会（以下「協議会」という）を設置する。
2　協議会の委員（以下「委員」という）の数は、15 人以内とし、教育委員会が委嘱する。
3　委員の任期は、2 年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。
（委任）
第 11 条　この条例に定めるもののほか必要な事項は、教育委員会が別に定める。

附　則
1　この条例は、昭和 57 年 6 月 5 日から施行する。
2　この条例施行の際、現に市立大町山岳博物館条例（昭和 29 年条例第 18 号）第 5 条の規定により委員として委嘱された者は、この条例第 10 条の規定により委嘱されたものとみなし、任期は、同条第 3 項の規定にかかわらず、昭和 58 年 3 月 31 日までとする。
附　則（昭和 61 年 3 月 24 日条例第 8 号）
　この条例は、昭和 61 年 4 月 1 日から施行する。
附　則（平成元年 3 月 24 日条例第 7 号）
この条例は、平成元年 4 月 1 日から施行する。
附　則（平成 4 年 3 月 31 日条例第 8 号）
この条例は、平成 4 年 4 月 1 日から施行する。
附　則（平成 5 年 12 月 24 日条例第 32 号）
この条例は、平成 6 年 4 月 1 日から施行する。
附　則（平成 12 年3月 29 日条例第 13 号）
この条例は、平成 12 年 4 月 1 日から施行する。
附　則（平成 13 年 3 月 27 日条例第 13 号）
この条例は、平成 13 年 4 月 1 日から施行する。
附　則（平成 17 年 12 月 6 日条例第 30 号）
この条例は、平成 18 年 1 月 1 日から施行する。

別表第 1（第 5 条関係）

種別	区分	単位	観覧料
一般	大人	1 人	400 円
	高校生	〃	300
	小人	〃	200
団体 （30 人以上の場合をいう）	大人	〃	350
	高校生	〃	250
	小人	〃	150

備考　特別の資料を展示する場合は、1,000 円の範囲内においてその都度教育委員会が定める額とする。

別表第 2（第 6 条関係）

望遠鏡使用料	1 回	100 円

2. 市立大町山岳博物館規則

昭和 57 年 3 月 30 日
教育委員会規則第 3 号

改正　平成元年 3 月 31 日教委規則第 3 号　平成 9 年 12 月 26 日教委規則第 3 号
平成 12 年 3 月 30 日教委規則第 9 号

（趣旨）

第 1 条　地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）第 33 条第 1 項及び市立大町山岳博物館条例（昭和 57 年条例第 12 号。以下「条例」という）第 11 条の規定に基づき、市立大町山岳博物館（以下「博物館」という）の管理運営並びに市立大町山岳博物館協議会（以下「協議会」という）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

（職務）

第 2 条　館長は、上司の命を受け、館を統括し、所属職員を指揮監督する。

2　学芸員は、館長の命を受け、博物館法（昭和 26 年法律第 285 号）第 4 条第 4 項に規定する職務を遂行する。

3　その他の職員は、館長の命を受け、職務を遂行する。

4　館長を補佐するため、副館長を置くことができる。副館長は、係長相当職をもって充てる。

5　嘱託員は、学術に関する職務に従事する。

（休館日）

第 3 条　博物館の休館日は、次のとおりとする。ただし、臨時に開館又は休館することができる。

(1)　毎週月曜日

(2)　国民の祝日に関する法律（昭和 23 年法律第 178 号）に規定する休日の翌日（この日が月曜日に当たるときは、その翌日）

(3)　12 月 29 日から翌年 1 月 3 日までの日（前号に掲げる日を除く）

（開館時間）

第 4 条　博物館の開館時間は、午前 9 時から午後 5 時までとする。ただし、教育委員会が特に必要と認めたときは、これを変更することができる。

（観覧券の交付）

第 5 条　条例第 5 条の規定による観覧料の納付があったときは、観覧券（様式第 1 号）に領収印を押印し、交付するものとする。

（観覧料の減免）

第 6 条　条例第 7 条の規定による観覧料の減免を受けようとする者は、博物館観覧料減免申請書（様式第 2 号）を教育委員会に提出し、承認を得なければならない。

（博物館資料の利用等）

第 7 条　条例第 8 条の規定により博物館の資料を利用しようとする者は、市立大町山岳博物館資料特別利用許可申請書（様式第 3 号）を教育委員会に提出し、承認を得なければならない。

2　前項の規定による資料の利用期間は、30 日以内とする。ただし、教育委員会が必要と認めた場合は、延長することができる。

（入館制限等）

第 8 条　教育委員会は、次の一に該当するときは、入館を拒否し、退館を命じ、又は許可を取り消し、その他必要な措置を講ずることができる。

(1) 公の秩序又は善良な風俗を害するおそれがあると認められるとき。
(2) 管理上支障があると認められるとき。
(3) その他教育委員会が必要と認めるとき。
(資料の寄贈及び寄託)
第9条 博物館は、資料の寄贈及び寄託を受けることができる。資料を寄贈及び寄託しようとする者は、博物館資料寄贈・寄託書(様式第4号)を教育委員会に提出するものとする。
2 寄託を受けた博物館資料は、寄託者の請求によりこれを返還する。
3 博物館は、寄託を受けた博物館資料が災害その他不可抗力によって滅失又は損傷した場合は、損害賠償の責を負わない。
4 寄贈又は寄託を受けた博物館資料は、一般の資料と同一の取扱いをするものとする。
(資料等の滅失・損傷)
第10条 館長は、博物館の資料、施設等が滅失又は損傷したときは、速やかに教育委員会に報告し、その指示を受けなければならない。
(協議会の組織)
第11条 協議会に、委員の互選による会長及び副会長各1名を置く。
2 会長は、会務を総理し、会議の議長となる。
3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。
(協議会の会議)
第12条 協議会の会議は、館長の諮問により会長が招集する。
2 協議会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。
3 会議の議決は、出席委員の過半数の賛成がなければならない。

附 則
1 この規則は、昭和57年6月5日から施行する。
2 市立大町山岳博物館規程(昭和29年教育委員会規則第9号)及び市立大町山岳博物館協議会規程(昭和29年山岳博物館規程第1号)は、廃止する。
附 則(平成元年3月31日教委規則第3号)
この規則は、平成元年4月1日から施行する。
附 則(平成9年12月26日教委規則第3号)
この規則は、平成10年1月1日から施行する。
附 則(平成12年3月30日教委規則第9号)
この規則は、平成12年4月1日から施行する。
様式(省略)

3. 大町市ライチョウ保護事業計画策定委員会設置要綱

平成 17 年 7 月 7 日
教育委員会告示第 8 号

（趣旨）
第 1　大町市におけるライチョウ保護事業の計画を策定するため、大町市ライチョウ保護事業計画策定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。
（所掌事務）
第 2　委員会は、ライチョウの保護事業に関する計画の策定及びその他計画策定上必要な事項を検討するものとする。
（組織）
第 3　委員会は、委員 10 人以内で組織し、学識経験を有する者のうちから教育委員会が委嘱する。
（任期）
第 4　委員の任期は、ライチョウ保護事業計画の策定業務が終了するまでとする。
第 5　委員会に委員長及び副委員長各1人を置き、委員が互選する。
2　委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。
3　副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。
（オブザーバー）
第 6　委員会にオブザーバーを置くことができる。
2　オブザーバーは、ライチョウの保護事業に関し、必要な意見を述べることができる。
（会議）
第7　委員会の会議は、委員長が招集し、議長となる。
2　委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を求めることができる。
（事務局）
第8　委員会の事務局は、市立大町山岳博物館に置く。
（補則）
第9　この要綱に定めるもののほか必要な事項は、別に定める。

附　則

この告示は、告示の日から施行する。

Ⅸ 施設

1. 敷地面積

39,875.92 ㎡

2. 本館建物

(1)構　造:鉄筋コンクリート　地上 3 階　地下 1 階
(2)竣　工:昭和 57 年 5 月 31 日竣工
(3)延べ床面積:2,207.0 ㎡
(4)床面積表　　（単位：㎡）

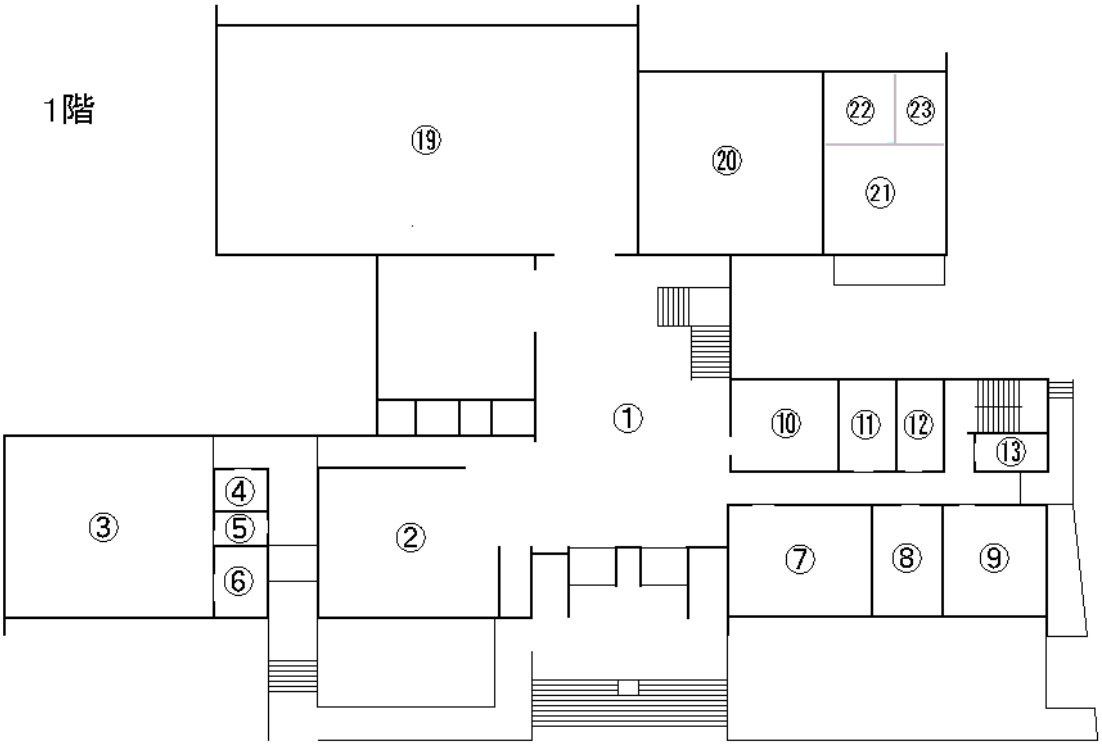
名称および面積	名称および面積	名称および面積	名称および面積
1 階　1244.9	⑬倉　庫　8.8	2 階　686.1	3 階　116.8
①ホール　205.5	⑭E. V　5.1	㉔ﾚｸﾁｬｰｽﾍﾟｰｽ　113.6	㉜展望室　94.6
②喫茶　74.2	⑮給湯室　3.0	㉕研究室　69.6	その他(階段)　86.9
③講　堂　110.2	⑯倉　庫　3.5	㉖図書室　34.8	
④便　所　8.1	⑰EV 機械室　6.0	㉗倉　庫　16.0	地階　159.2
⑤映写室　5.4	⑱特別展示室　6.0	㉘収蔵庫　42.1	㉝機械室　118.8
⑥準備室　9.1	⑲第 1 展示室　290.0	㉙便　所　18.2	㉞車　庫　23.0
⑦事務室　51.0	⑳収蔵庫　104.0	㉚第 2 展示室　290.0	その他(階段)　17.4
⑧館長室　18.6	㉑荷解・作業室　41.3	㉛ﾊﾟｯｹｰｼﾞ室　14.9	
⑨宿直室　32.5	㉒ﾊﾟｯｹｰｼﾞ室　16.4	その他(廊下、階段)	
⑩便　所　29.0	㉓燻蒸室　12.3	86.9	
⑪書　庫　16.7	その他(廊下、階段)		
⑫更衣室　14.6	109.2		

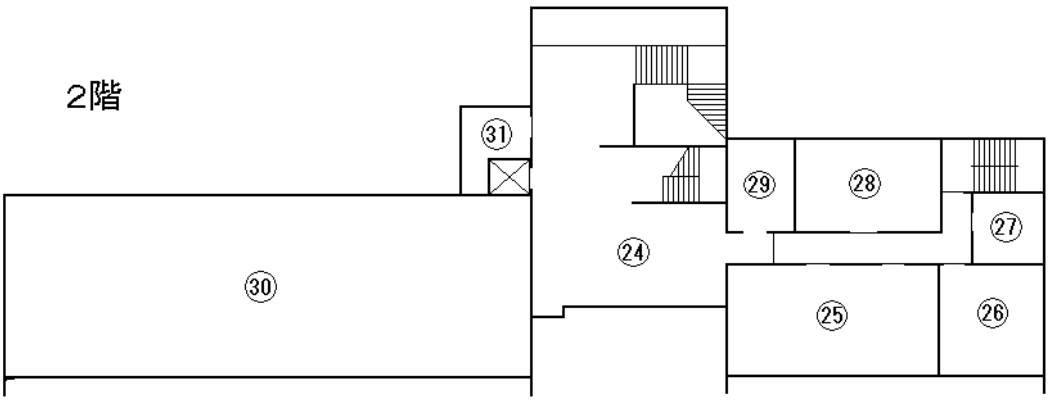
3. 付属施設

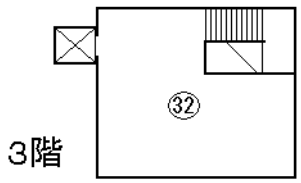
(1)付属園(本館隣)の建物

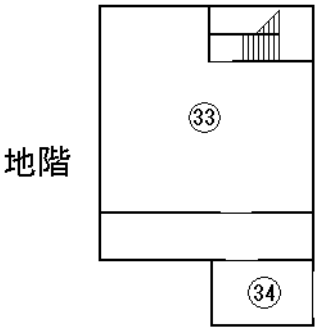
施設名および面積(築年度)		施設名および面積(築年度)	
①管理棟	33.44 (S42,43)	⑫旧サル舎	14.79(S38)S55 移設
②旧ライチョウ舎第一	44.275(S44,46)	⑬飼料倉庫(上)	15.7 (S57)
③旧ライチョウ孵卵舎	15.24 (S48)	⑭マーモット舎	9.24(S60)
④飼料倉庫(下)	33.44 (S49)	⑮ライチョウ舎第四	18.99(S61)
⑤旧ライチョウ舎第二	42.85 (S49)	⑯旧オオライチョウ舎	46.5(S61)
⑥旧ライチョウ舎第三	20.26 (S51)	⑰旧シャモア舎	26.92(H1)
⑦旧ﾗｲﾁｮｳ幼鳥舎	11.55 (S53)	⑱旧ﾗｲﾁｮｳ緊急隔離舎	34.83(H3,4)
⑧カモシカ緊急保護舎	22.62 (S53)	⑲ヤマネコ舎	5.2 (H3)
⑨旧ライチョウ舎連棟	39.63 (S54,55)	⑳鳥類舎	67.65(H4)
⑩中型哺乳類舎	28.20 (S38)S55 移設	㉑イヌワシ舎	44.88(H7)
⑪キツネ舎	16.20 (S48)S55 移設		

4. 本館平面図









5. 付属園の建物図

X　利用案内（平成 18 年 3 月 31 日現在）

1. 開館時間　午前 9 時～午後 5 時（入館は午後 4 時 30 分まで）

2. 休館日　　毎週月曜日、国民の翌日・振替休日の翌日、年末年始（12 月 29 日～1 月 3 日）

※月曜日が祝日・休日の場合は開館し、翌日休館　7 月・8 月は無休

3. 交通　　公共機関　JR 信濃大町駅から　タクシーで 5 分、歩いて 25 分

マイカー　長野自動車道豊科 IC から 40 分

（北アルプスパノラマロード経由　白馬方面へ 28 km）

※博物館前に無料駐車場（普通車 30 台・大型バス 5 台収容）

4. 観覧料

区　分	大　人	高校生	小・中学生
個　人	400 円	300 円	200 円
団　体（30 名様以上）	350 円	250 円	150 円

5. ユニバーサルデザイン

入口スロープ、車イス用トイレ、車イス対応エレベーター、貸出用車イス・ベビーカー、ベビーベッド、点訳版パンフレット、アシスタントドッグ同伴可能

6. 所在地および連絡先

〒398-0002　長野県大町市大町 8056－1

（標高：766m、経緯：北緯 36 度 30 分、東経 137 度 52 分）

TEL：0261-22-0211／FAX：0261-21-2133

E-mail：sanpaku@city.omachi.nagano.jp

URL：http://www.city.omachi.nagano.jp/sanpaku/

市立大町山岳博物館　平成 18 年度　年報
平成 19 年6月〇〇日発行
編集･発行　市立大町山岳博物館
〒398-0002 長野県大町市大町 8056-1
TEL:0261-22-0211/FAX:0261-21-2133
印刷･製本　〇〇〇〇
〒398-0002 長野県大町市大町〇〇
TEL:0261-22-〇〇/FAX:0261-22-〇〇
2007